

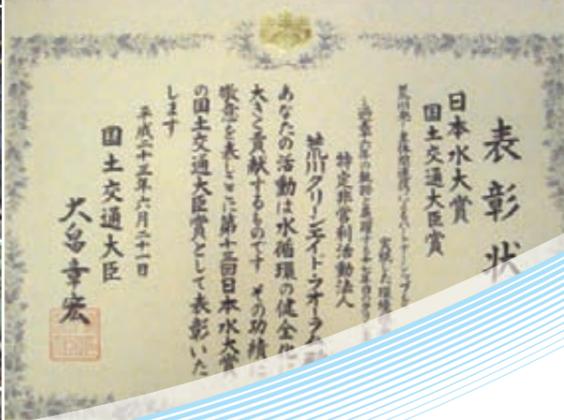


荒川クリーンエイド・フォーラム 2011 報告集

特定非営利活動法人  
**荒川クリーンエイド・フォーラム**  
**2011 報告集**

Specified Nonprofit Corporation  
**Arakawa River Clean-aid Forum**  
**2011 Annual Report**

主体間連携による環境保全活動  
 皆様と共に実現しています



■本レポートに関するお問い合わせ先  
 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム  
 132-0033 東京都江戸川区東小松川13-35-13-204  
 NICハイム船堀(小松川市民ファーム内)  
 TEL:03-3654-7240 / FAX:03-3654-7256  
 E-mail:renraku@cleanaid.jp  
 ■製作・印刷 株式会社サンワ  
 ■発行責任者 糸岡栄博  
 ■発行 2012年3月



特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

## 荒川クリーンエイド・フォーラムが目指すもの

当年度の本活動は、①ゴミによって影響を受ける自然の回復を目指し、②これまで充分でなかったゴミの減量を社会に訴える情報発信の強化という視点を新たに加えました。そして、過去17年の活動以上に現場密着型中間支援組織としてのビジョン・ミッションを追究してきました。



### 〈荒川クリーンエイド・フォーラムが目指すもの〉

未来を担う子どもたちに、豊かな自然を残すため、  
荒川流域でのゴミ拾いを中心とした取り組みを通して、  
市民の環境保全意識を高め、  
生物多様性の保全に貢献します。

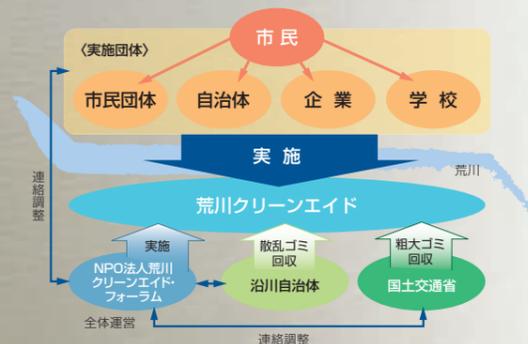
## 荒川クリーンエイド・フォーラムとは

当会のはじまりは、1994年、当時の旧建設省荒川下流工事事務所の呼び掛けではじまった活動「荒川クリーンエイド」を市民で運営したことに端を発します。

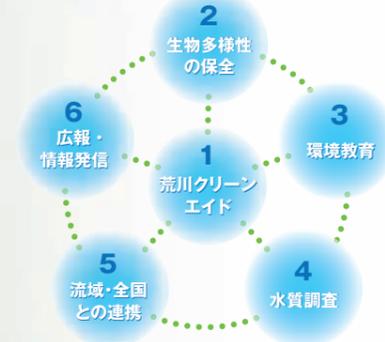
本活動は、ゴミの内訳は何かを調査し、数えながらゴミを拾う活動として、流域の至るところで実施されてきました。また自然環境の回復と荒川に集い思いを寄せる人々の交流と環境意識でつながる輪を拡げセクター間のパートナーシップを実現してきました。

1999年のNPO法人取得後は、活動基盤を整え、今では、「荒川クリーンエイド」を起点に生物多様性の保全や環境教育をはじめとする様々な事業領域（6つの活動）を広げています。

### 〈セクター・パートナーシップ〉



### 〈6つの活動〉



## C O N T E N T S

<b>トップメッセージ</b>	2
特集1：日本水大賞「国土交通大臣賞」受賞	3
特集2：「発生抑制」を目指すゴミ拾いを本格始動	4
特集3：「絶滅危惧Ⅰ類」10年ぶりに市民が発見	5
<b>荒川クリーンエイドの運営【荒川で ちょっといいこと ゴミ拾い】</b>	6
過去最高の参加者と共に	7
源流から河口までのネットワーク	8
荒川のゴミの実態	10
荒川ペットボトル大捜索！	14
荒川スタイルのゴミ発生抑制 “マイボトルdeゴミ拾い。”	15
主催・共催で盛り上がる荒川クリーンエイド	16
荒川クリーンエイドの仲間たち	18
企業の社会貢献活動をサポート	28
<b>生物多様性の保全【荒川から広がる 都市の自然】</b>	30
「利用」と「保全」、自然地を巡る二つの考え方	31
新しい公共を目指す「里川創造プロジェクト」	32
市民・民間の協働「絶滅危惧種の復活プロジェクト」	36
<b>環境教育の推進【次世代育成のために 知って 学んで 楽しんで】</b>	40
企業の新入社員研修に荒川クリーンエイドを活用	41
「体験」を「学び」につなげる学校教育支援	44
集まれ！荒川エコキッズ2011	46
<b>水質調査の実施【市民モニタリングで、見守り続ける水環境】</b>	48
水環境への関心を高める川の水質	49
<b>流域・全国との連携【荒川から地球が見えてくる】</b>	50
源流のエコツアー、中流でのシンポジウム	51
市民協働の自然地創りのあり方を検討	52
行政との対話の場 荒川自然懇談会への参加	53
全国の河川ゴミの現状把握へ 国土交通省WGに参加	54
国内、世界のゴミの発生抑制に向けたNGOとの連携	55
<b>広報・情報発信【市民の力で 人を集め 社会へ 発信する】</b>	56
活動の魅力の発信と社会変革を促す荒川スタイル	57
有名婦人雑誌ミスエホカ、テレビ・新聞ラジオでの報道概況	58
団体のTシャツやバンダナの販売を開始	59
<b>2011年 お世話になりました</b>	60
<b>荒川クリーンエイド・フォーラムの組織</b>	

# トップメッセージ Top message

## 生物多様性の保全と 環境教育、流域交流などの 活動を推進します



特定非営利活動法人  
荒川クリーンエイド・フォーラム 代表理事  
**佐藤 正兵**

3月11日、東日本を襲った大地震と津波によって東北3県の沿岸部は未曾有の被害を受け、加えて、福島第1原発の爆発事故によって、日本は計り知れない打撃を被りました。罹災された方々に心からお見舞いとお悔みを申し上げます。

荒川でも、80~60cmの津波が到来し、河川敷の各所で液状化がおり、また、地上放射線量が通常を上回る場所も見られました。春に予定していた活動の多くも中止となりました。

それにも拘らず、18年目の荒川クリーンエイドは、終わってみれば過去最大の参加人数となりました。近年急増しているペットボトルに注目し、その削減に向けて「マイボトルdeゴミ拾い。」をキャッチフレーズに活動を展開し、マスコミと社会に訴えました。ペットボトルをはじめとしてプラスチック容器を大量に使い続けると、川と海はゴミだらけになり、生態系が破壊されてしまいます。

今年は、荒川の最上流、秩父市大滝の大滝小学校が同校の前を流れる中津川で荒川クリーンエイドを実施し、文字通り源流から河口の葛西なぎさまで109会場で実施いただきました。また、10月30日にはふるさと清掃運動会実行委員が委員長の本貞治さんも参加して、約800

人の参加で実施されましたが、同運動会は全国で約3万人が参加し、運動が広がっています。

水際でのゴミを拾うことによってヨシ原などが元気になり、水の浄化を進めるとともに、そこに依存して棲息する生き物たちも元気になっています。近年は水も比較的にきれいになり、きれいな水を好むアユやクルマサヨリもたくさん見られるようになり、また、アザラシの「あらちゃん」もやってきて人気をさらいました。

自然も部分的には回復していますが、荒川下流部の自然の象徴として保護してきたヒヌマイトトンボの絶対数が激減している中で、国土交通省の予算も付かないという状況を踏まえ、私たちはその保護活動を始めました。

本年度の第13回日本水大賞の国土交通省大臣賞を授与されました。これは永年の荒川クリーンエイドと自然保護の活動を評価いただいたもので、一緒に活動していただきましたフォーラム参加の皆様はじめ関係各位のおかげと深く感謝いたしております。

今後とも荒川クリーンエイドを進めるとともに、生物多様性の保全や環境教育、流域交流などの活動を広めていきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 特集1 日本水大賞「国土交通大臣賞」受賞

～荒川発！主体間連携によるパートナーシップを実現した環境保全活動～

荒川クリーンエイド・フォーラムは、第13回日本水大賞において国土交通大臣賞を受賞しました。「荒川発！主体間連携によるパートナーシップを実現した環境保全活動～過去16年間の軌跡と飛躍する17年目のクリーンエイド～」と題され、これまでの地道な活動の成果が象徴されています。

### 読売新聞全国版に掲載

6月20日の読売新聞全国版の朝刊において「ごみ拾いのべ13万人」との見出しで団体の活動や成果が紹介されました。

### 日本科学未来館にて表彰式・受賞活動発表会

平成23年6月21日（火）日本科学未来館にて、日本水大賞名誉総裁 秋篠宮殿下、毛利衛委員長らが同席のもと、表彰式・受賞活動発表会が行われました。当日は代表理事の佐藤正兵氏が登壇し賞を受け取り、受賞活動の発表は、事務局長の糸岡栄博氏が行いました。

### 多様な主体との連携や今後益々の飛躍を評価

審査部会からは、流域の多様な主体（自治体、企業、学校、市民団体など）の連携を図った長年の地道な活動を高く評価いただきました。



### メッセージ

日本水大賞国土交通大臣賞受賞おめでとうございます。

2011年、荒川放水路は明治44年の事業着手から100年という節目の年を迎えました。大都市における貴重なオープンスペースとして、多くの人々の憩いと安らぎの場となり、動植物の生息・生育の場となっています。

一方で、いわゆる自然地を中心に、外来種の繁茂、樹木の密生、ゴミ放置等の課題が顕在化しています。これらを解決するには、市民と行政との協働が欠かせません。

荒川クリーンエイド活動は「新たな公共」の考え方による河川管理を実践する先駆的な活動です。

荒川放水路をまもり、育てていくため、今後とも、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所長 小島 優

### ※日本水大賞とは

国内の水循環の健全化に寄与すると考えられる活動（①水防災、②水資源、③水環境、④水文化等）に関わる幅広い主体からの応募を審査し、大賞および関係省からの大臣賞等が授与される。国内の水環境関連賞のなかでは最大規模。

## 特集2 「発生抑制」を目指すゴミ拾いを本格始動

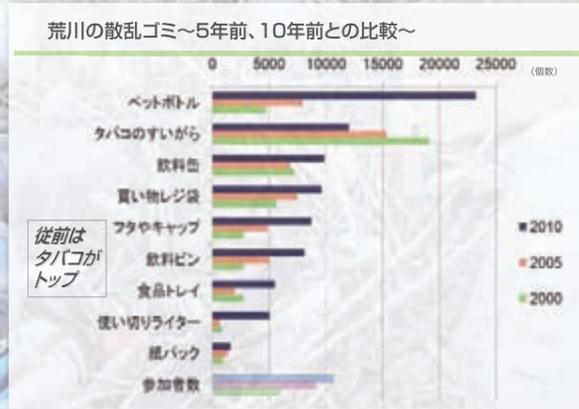
～ “マイボトル de ゴミ拾い。” それが、荒川スタイル。～

どんなゴミが落ちているか数えて拾う荒川クリーンエイドの醍醐味のひとつに、ゴミの発生を抑制することが掲げられます。2011年は、過去2年間で、ゴミの品目で最も多いペットボトルに着目し、内50%超を占める水・お茶のペットボトルゴミを抑制する活動を本格始動しました。



### なぜ今マイボトルなのか

荒川クリーンエイド・フォーラムでは、ゴミを数えながら拾うことを通じて、どうすれば川のゴミを無くすことが出来るか、市民参加で一緒に行動し、参加者みんなで考えることをコンセプトに運動を続けてきました。近年、タバコのすいがらに替わって、ペットボトルの増加が明らかになっています。



### マイボトル持参10,000人を目指す～拾うだけじゃないゴミ拾いを本格始動

このような実態を踏まえ、私たちは、「マイボトル持参 目指せ10,000人」を合言葉に、2011年9月10日のキックオフミーティングを経て、参加者一人ひとりに「マイボトル」をもってきてもらうことを呼びかけました。ゴミの「もと」を減らすゴミ拾いを、今まで以上に広げていきます。



## 特集3 「絶滅危惧I類」10年ぶりに市民が発見

～ 1999年以来か、市民が荒川でヒヌマイトトンボの成体を確認 ～

2011年より荒川に数多く生息していたヒヌマイトトンボ（環境省レッドリスト区分：絶滅危惧I類）の生息状況の調査を開始し、同年7月2日（土）ついに成体を発

見しました。これまで行政調査でのみわずかな個体が発見されていたものの、市民レベルでは十数年ぶりではないかと考えられています。

### 発見したのは未成熟の雌

7月上旬は、まだヒヌマイトトンボが羽化を開始する時期です。今回見つけた個体は、羽化後間もない未成熟の個体でした。

また、背中に、ヒヌマイトトンボ特有の斑点模様がないことから、雌の個体ではないかと推察されます。



### 読売新聞江東版に掲載

場所をオープンにしないよう配慮しながら、そのかけがえのない生命の大切さを社会に発信すべくプレスリリースを打ったところ、7月7日の読売新聞に掲載され、多くの読者に発信されました。



読売新聞7月7日(木)朝刊(江東版)に掲載



※本プロジェクトは三井物産環境基金の支援を受けて実施しています。

## 過去最高の参加者と共に

東日本大震災の影響を受け、春には中止となった会場も多い年でしたが、秋に延期しての実施もあり、過去最高の参加者が沿川各地の河川敷で荒川クリーンエイドを実施しました。

### ■ 127の実施会場エントリー（過去最高！）

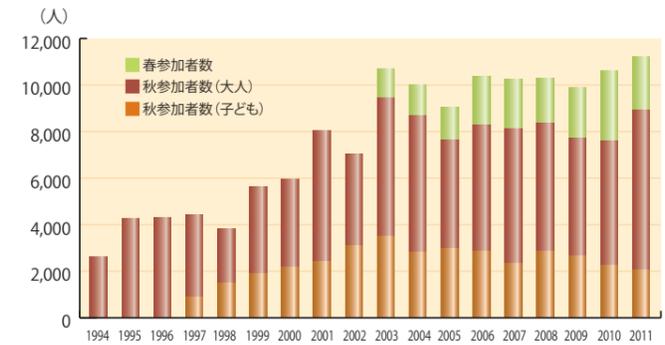
2011年秋は、週末の度に雨天に見舞われ、参加者を募って実施を予定していた会場でも、秋だけで14会場が中止、3会場は2012年1、2月への延期となりました。小雨の中で実施した会場も多くありましたが、年間を通じて、109会場で活動が実施されました。

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
エントリー会場数	75	81	106	102	111	120	127
実施会場数	69	77	100	92	90	110	109

会場数の推移

### ■ 11,223人が参加（過去最高！）

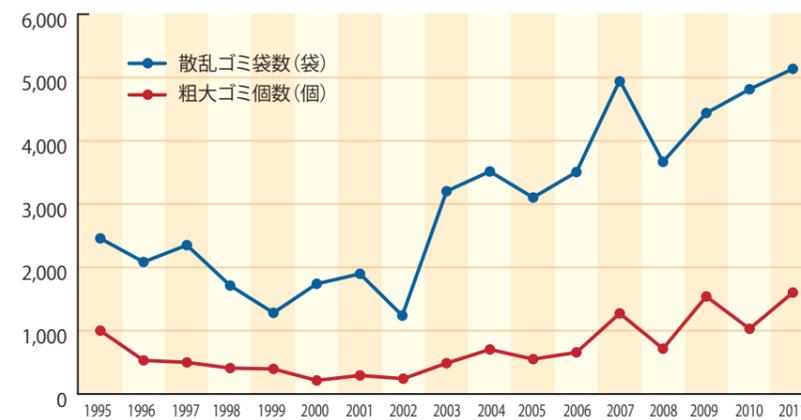
2003年以降は、毎年約1万人の参加者で実施をしてきました。今年は雨による影響を大きく受けましたが、過去最高となる、延べ11,223人の参加者でゴミを回収しました。



荒川クリーンエイド参加人数の推移

### ■ 5,136袋分のゴミ、1,606個の粗大ゴミを回収（過去最高！）

9月に関東地方に上陸した台風15号の影響を受け、下流域の水際には、ヨシが倒され、その上に多くのゴミが漂着している様子が各地で見られました。また、粗大ゴミの漂着も多く、昨年の約1.5倍の個数の粗大ゴミを回収しました。その反面、中流域からは、台風で流されたせいかゴミが少なかったとの報告もありました。2011年全体をみると、参加者が増えたことによる回収数の増加以上に台風の影響を受けた結果となりました。



回収したゴミの推移



## 荒川で ちょっといいこと ゴミ拾い

荒川クリーンエイドでは、一つひとつのゴミの重みを感じながら種類別に数えて拾っています。そのデータは事務局に報告いただき集計しています。10年以上減り続けるタバコのすいがらとは逆に、増え続けるペットボトル。2011年は、ペットボトルが群を抜いて多く回収され、他にも飲料びん、飲料缶など飲料容器のゴミが上位を独占する結果となりました。ペットボトル調査からは荒川のゴミが特別のものでなく私たちの消費社会を反映していることがわかります。また粗大ゴミではブラウン管テレビがこれまでの3倍近く回収されるなど今年の特徴が荒川でも見られています。さらに、これら結果を発信するとともに、ゴミの少ない社会の実現に向け、荒川クリーンエイドは「拾うだけじゃないゴミ拾い」へ大きく動き始めました。

# 源流から河口までのネットワーク

荒川クリーンエイドは、市民団体、自治体、企業、学校など様々な団体とのパートナーシップを実現しながら、支流も含めた流域各地で実施されています。

## ■ 市民団体 ~仲間とともに身近な川の環境保全~

2 NPO法人秩父の環境を考える会、3 秩父教育懇話会、4 NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会、5-7 鴻巣の環境を考える会、8 ふれあい市野川クリーンアップ作戦協議会、9 市野川水系の会イン滑川町、10 NPO法人荒川流域ネットワーク、11 NPO法人荒川の自然を守る会、12-14 大谷川クリーン大作戦実行委員会、18 黒目川に親しむ会、19 黒目川クリーンエイド実行委員会、東久留米少年野球連盟、20 (財) 埼玉県生態系保護協会 戸田・蔵支部、22-23 荒川夢クラブ、24-25 (財) 埼玉県生態系保護協会 川口支部、27 板橋グローブクラブ、28-29 いたばし野鳥クラブ、30-31 板橋水辺を楽しむ会、33-36 北区水辺の会、38 北区水辺クラブ、41-55-57 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム、42-43 ポーイスカウト東京連盟城北地区北第11団、44-45 尾久の原愛好会、62 東京白鷗・城北・西新井・足立中央ライオンズクラブ、63 あらかわエコフレンド、64 隅田川市民交流実行委員会、68 あらかわミズガキ隊、88 TM、90-92 下平井水辺の楽校、97 小松川平井連合町会、98 ふるさと清掃運動会実行委員会、99 江戸川・生活者ネットワーク、ガールスカウト215団、110 中土手に自然を戻す市民の会、111 いきこみクラブ、111-113 NPO法人えどがわエコセンター、113 都漁連内湾

釣漁協議会、葛西東渚・鳥類園友の会、114-121 西なぎさ発：東京里海エイド、125-127 江東エコリーダーの会



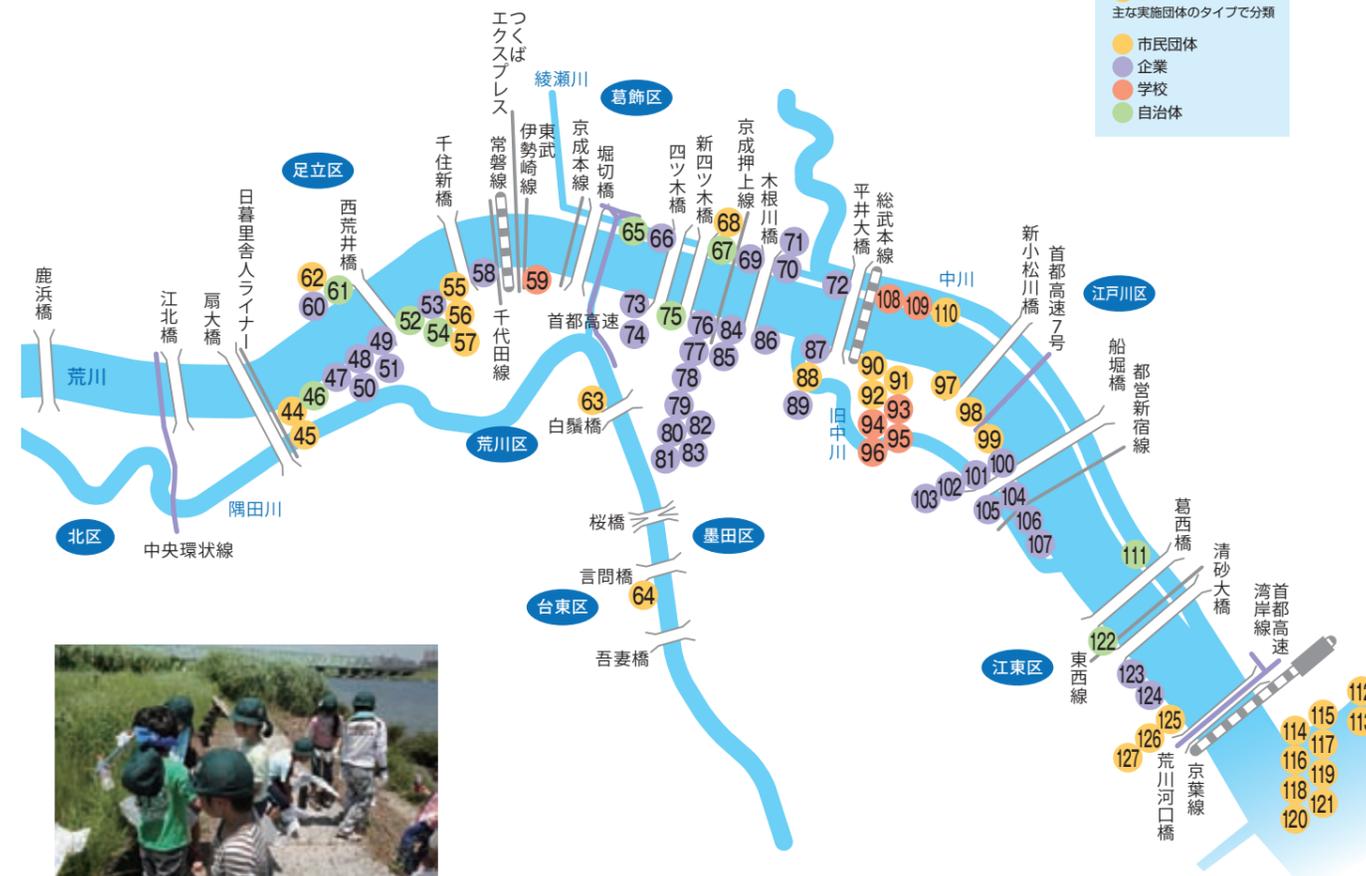
## ■ 企業 ~社会貢献、社員研修、社員交流の一環として~

15-16 NTT東日本埼玉グループ、17 ダイエーグループ、26 株式会社ファミリーマート、39 日本工営株式会社、47 みずほ証券株式会社、48 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社、49 日本サムスン株式会社デザインチーム、50 SMCシビルテクノス株式会社、51 株式会社ガーリバーインターナショナル、53 株式会社日立ビルシステム、58 三井住友海上プライマリー生命保険株式会社、60 足立成和信用金庫、66 一般財団法人アールビーズスポーツ財団、69 リコーテクノシステムズ株式会社、70 株式会社新生銀行、71 株式会社藤商事、72 一般社団法人東京損害保険代理業協会、73-74 株式会社エクスワン、76-79 プールームバーグL.P.、80 東海東京フィナンシャル・グループ、81、103 日本アイ・ビー・エム株式会社、82 シティグループ、83 一般社団法人建築ビジョン、84 SMBC日興証券株式会社、85 株式会社かんぽ生命保険、86 松山油脂株式会社、87 小松川信用金庫、89 ローソングループ、100-101 島村運輸倉庫株式会社、102 日本クラフトフーズ株式会社、104 ジョンソンコントロールズ株式会社、105 「24時間テレビ」チャリティー委員会、106 住友生命保険(相)、107 株式会社キャプティグループ、123 佐川急便株式会社、124 株式会社りそな銀行 首都圏地域



荒川クリーンエイドの運営

荒川クリーンエイドの運営

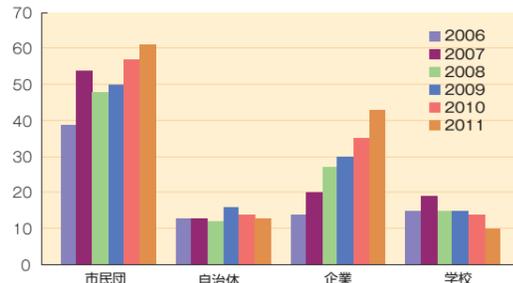


## ■ 学校 ~総合的な学習の時間で地域を愛する心を育む~

1 秩父市立大滝小学校、32 都立桐ヶ丘高等学校、37 豊島区立南池袋小学校、59 (学) 足立学園中学校、93 江戸川区立平井東小学校、94 江戸川区立小松川小学校、95 江戸川区立平井小学校、96 江戸川区立平井東小学校、108、109 江戸川区立大杉小学校

## ■ 自治体 ~学校や住民に呼びかける美化活動~

20 戸田市河川課、21 川口市建設部建設管理課、29 板橋区みどり公園課、40 北区、46-52 荒川区教育委員会社会体育課、54 台東区教育委員会青少年スポーツ課、61 足立区、足立区荒川ビジターセンター、65-67 荒川を考える葛飾区民会議、葛飾区、75 墨田区、111 江戸川区土木部計画課、122 江東区土木部水辺と緑の課



## ■ 企業のクリーンエイドが年々増加

2011年に(中止を含め)実施した会場を主体別にカウントすると、市民団体が最も多いのですが、企業の参加は5年前の3倍となり、年々活発になっています。

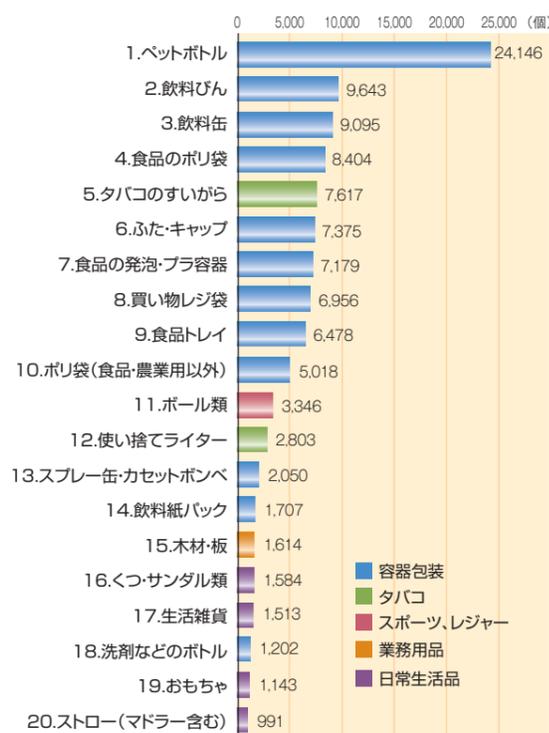
## 荒川のゴミの実態

荒川クリーンエイドでは、ゴミを数えながら拾うことで、参加者一人ひとりのゴミの種類等に対する意識や関心を高めます。またその結果を社会に発信して発生抑制の推進に役立っています。

### ■ 3年連続ペットボトルがトップ

数えて拾ったゴミの数（破片類を除く）の中では、ペットボトルが群を抜いて多く24,000個を超えました。続いて、飲料びん、飲料缶が多く、初めて飲料容器が上位3つ全てを占める結果となりました。

経年比較で見ても、2009年以降ペットボトルが目立って多く回収されています。

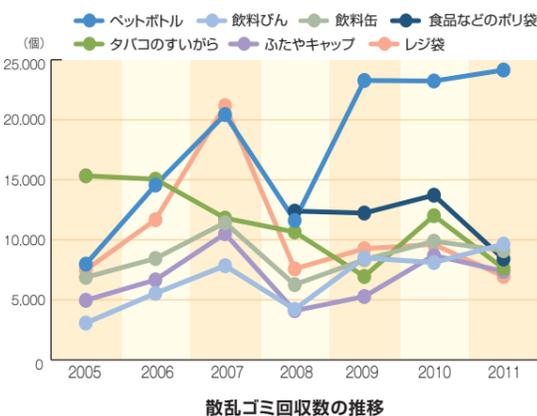


散乱ゴミ回収数 上位20

### ■ ゴミの1/3は破片類

荒川で拾ったゴミには、破片類など細かなゴミが多く含まれています。破片類の割合は全体の35%となっています。

プラスチック類の破片は、水流や風、紫外線などの影響で微細化して回収が困難になるばかりでなく、生き物への影響も問題となっています。すべてを拾うことはできませんが、荒川で回収することはその影響を少なくすることに役立つものと考えられます。



散乱ゴミ回収数の推移

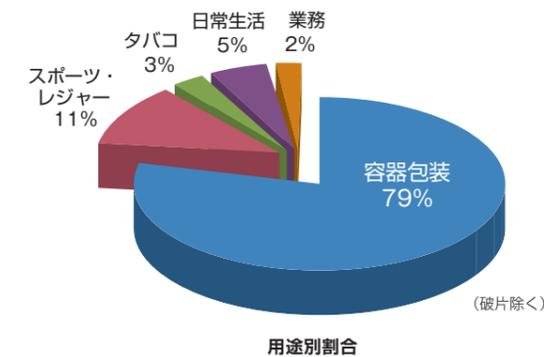


### ■ 素材別から用途別調査へ(調査カードの改訂)

2011年の調査カードは、これまでの素材別の分類から、「容器包装」「スポーツ・レジャー」「日常生活」「業務」などの行為に伴う用途別の分類へと改訂しました。

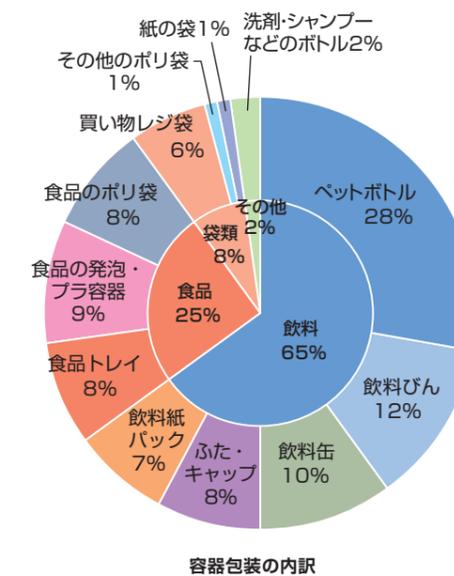
### ■ 容器包装類が約8割を占める

破片類を除いた用途別のゴミの数では、容器包装類がその約8割を占めています。ゴミの多くは工夫によっては減らすことも可能であろう容器包装類が多いことがわかります。



### ■ ペットボトル、飲料びん、飲料缶が上位を占める

全体の79%を占める容器包装類の中でも、ペットボトル、びん、缶、紙パック、ふたやキャップなどの飲料容器が多く(58%)、続いてトレイや弁当・カップめんなどの食品容器(24%)、レジ袋などの袋類(14%)の割合が高くなっています。飲料と食品の合計で80%を超え、それだけ私たちの食生活から出るゴミが自然界に流出していることがわかります。



容器包装の内訳

### ■ ゴミが私たちの消費生活を反映

2011年に回収したゴミを5年前、10年前と比較してみると、参加者数が増えた分回収した数は全体的に増えていますが、中でもペットボトル、飲料びんがそれ以上の増加となっています。飲料びんは小型のドリンク剤のびんが多く拾われています。また、タバコのすいからは大幅に減少、レジ袋は2007年をピークに近年は減少傾向が見られます。これらの点より、荒川のゴミは私たちの消費生活を反映していると言えます。



5年前、10年前との比較

注: 散乱ゴミの個数

### ■ 注射器264個を回収

近年、河川敷で注射器が多く拾われるようになり、2011年も北区内の河川敷から東京湾まで多くの会場で合計264個が回収されました。他にも医療廃棄物が時々見られますが、これらは廃棄される過程で不法投棄されたものと、注射器については薬物用に使用されたものがあると考えられます。



### ■ 継続実施の成果が見え始める

2011年は台風の影響で、一部会場では大量のゴミが一带に漂着している様子が見られました。しかし、写真のように、長年蓄積されていたゴミが除かれ、ゴミの密度が低くなっているのがわかります。



2009年春のクリーンエイド実施前 ⇒ (この間に3回荒川クリーンエイドを実施) ⇒ 2011年秋のクリーンエイド実施前  
足立区・西新井橋右岸上流のゴミの様相



### 拾い続けると、ゴミは減っていきます！

荒川クリーンエイド・フォーラム理事/事務局 伊藤浩子

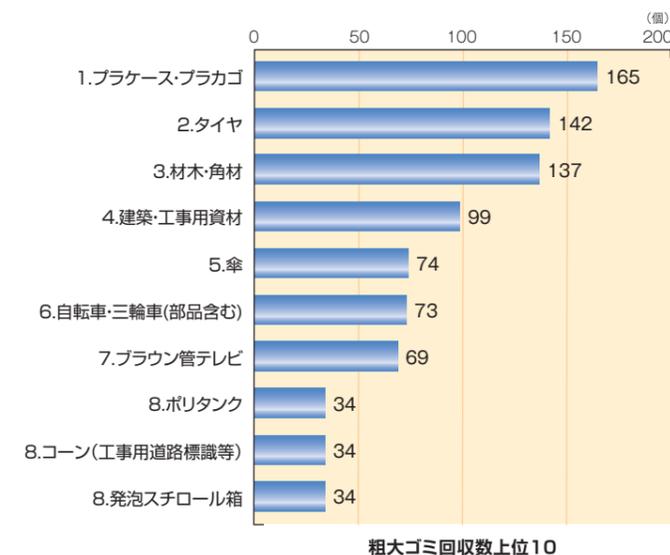
18年目の荒川クリーンエイド。「過去最高のゴミ袋を回収」と記載していますが、荒川のゴミは増えているのでしょうか？ 回収量が増えているのは、①参加者が増えているため②ゴミが長年溜まっている地域を積極的に回収するため、の2つの理由が考えられます。同じ場所を年に1、2回定期的に荒川クリーンエイドを実施している会場からは、「ゴミが減りました」「ゴミが減って嬉しい」という声が続々と届いています。年に2回実施している会場に毎回サポートに向き自分の目で見、感じ

ているのも同様で、これまで蓄積されていたゴミが片付き、前回の荒川クリーンエイド以降に溜まった分を回収すれば良いだけに確実に減ってきている！と実感しています。うまく数値では表せませんが各所で成果が見えてきています。

年に1～2回ずつその間に溜まったゴミ拾いが各所で実現できると、ゴミが河川敷や川、海の生態系へ及ぼす影響を減少させ、自然回復が実現できいくと考えています。さらに多くの皆さんで私たちの荒川の自然を豊かにしていきましょう！

### ■ 粗大ゴミ回収数が昨年の1.5倍！

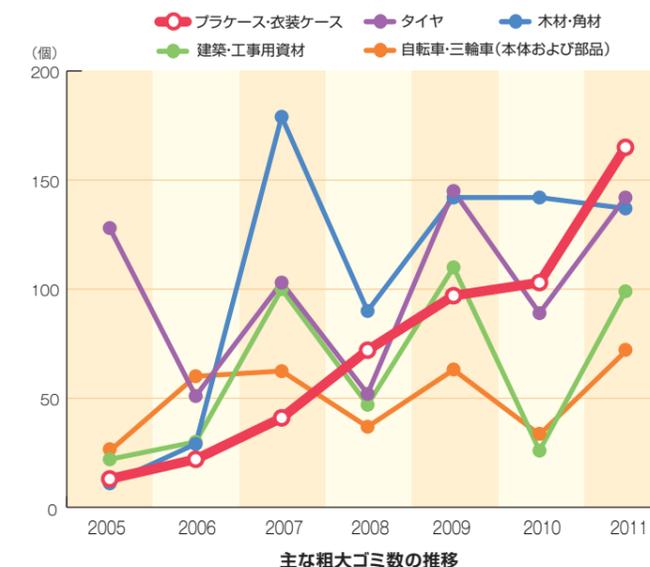
粗大ゴミの回収数は、台風上陸、大雨の直撃回数、実施場所など様々な要因で大きく変化します。総数として、2011年は昨年の1.5倍以上の数を回収しました。これは、台風の影響と考えられます。



### ■ プラケース(衣装ケース)が年々増加

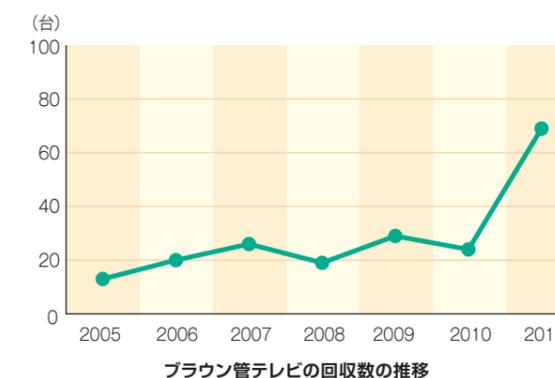
タイヤ、建築・工所用資材、自転車は、2007、2009、2011年は台風などの影響を受け粗大ゴミ総数が多い年には多く回収されているといった同様の傾向が見られます。

年ごとの影響とは関係なく、プラケースは年々増加し、2011年は160個で回収数1位となりました。



### ■ テレビが急増 ～アナログ放送終了の影響か？～

ここ数年の回収数が20個前後で推移していたテレビが、2011年は68個と一気に昨年の2.8倍の数を回収しました。中流域でも「不法投棄されていたテレビが多い」など、各地でテレビの投棄ゴミが目立っていたとの報告がありました。2011年はアナログ放送終了により不要になったテレビの不法投棄が多かったものと推察されます。

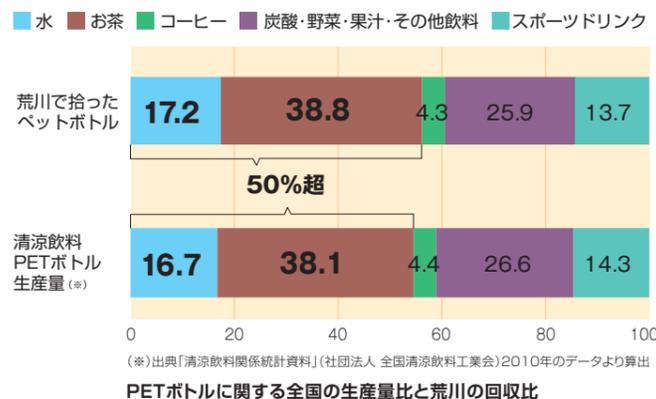
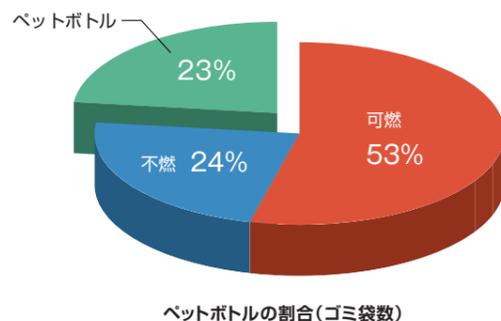


## 荒川ペットボトル大捜索！

荒川で拾われるゴミで最も多いペットボトルゴミに着目して、荒川でのペットボトル状況を把握できるようペットボトル大捜索（ペットボトル調査）を昨年に引き続き実施しました。

### ■ ゴミ容積の2割はペットボトル

色分けして回収したゴミ袋の中でペットボトルのゴミ袋は全体の23%を占める結果となりました。破片も含めた個数では全体の約13%であるペットボトルですが、かさばるために容積として多くを占めています。



### ■ 荒川のゴミが社会を反映

集めたペットボトルをその種類別に調査したところ、全国の清涼飲料の「PETボトル品目別生産量」とほぼ一致することがわかりました。これにより、荒川のゴミは荒川だけの問題ではなく、社会を反映していることがわかります。

### ■ 拾うだけじゃないゴミ拾いを推進

回収した清涼飲料ペットボトルのうち、50%以上が水やお茶であることから、2011年の荒川クリーンエイドへの参加の際には、マイボトル持参を呼びかけました。ゴミ拾いをして、「自分たちでもゴミを減らしたい」という気持ちを表現し、行動するための一歩となるよう役立てていただきました。また、一部の実施会場からは、参加した子どもたちに、(株)スター商事様から協賛いただいたSIGGボトルを渡し、マイボトル持参を推進しました。

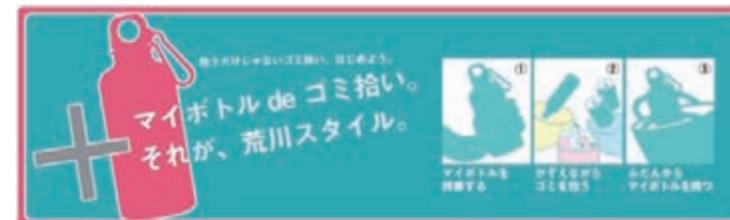


SIGGボトル



## 荒川スタイルのゴミ発生抑制 “マイボトル de ゴミ拾い。”

荒川クリーンエイドの運営は、「現状把握」から「発生抑制」のフェーズに向けて飛躍的に皆様とともに成長しています。本キャンペーンはこれまで参加者の皆様から寄せられていたゴミの根本解決を考えるべく、企画したものです。



環境省マイボトル・マイカップキャンペーン ロゴ

### ■ 活動のブランドアップに向けて

環境省が推進する「マイボトル・マイカップキャンペーン」と連携し、「地域で取り組む市民団体、行政」のカテゴリーに9月初旬に登録されました。

### ■ 個人に対して：マイボトルを持って参加

個人の参加者に対しては、荒川クリーンエイドのキャプテン、そして、キャプテンが募る一般参加者のそれぞれに対して、三つのアクションを設定しました。

今年は、Action1において、持参率3割を記録するとともに、Action2を通して、参加者からの有益な感想を得ることができました。

	参加団体キャプテン	一般参加者
体験 (形式参加)	<b>Action1 (事前)</b> “マイボトルの持参” 参加者に「マイボトルdeゴミ拾い。」キャンペーンにつき、マイボトルをご持参いただくよう事前にお知らせください。水・お茶の持参をお勧めします。	マイボトルを持って荒川の河川敷にいらしてください。水・お茶の持参をお勧めします。
学び (意識改革)	<b>Action2 (当日)</b> 数えながら“ゴミを拾う” 荒川の河川敷で、ゴミの数を数え、清掃活動を行っていただきます。昨年度から行っているペットボトル大捜索！を実施いただけます。	荒川の河川敷で、ゴミの数を数え、清掃活動を行ってください。「私たちにできること」を皆で考えましょう。
行動 (環境行動)	<b>Action3 (事後)</b> “意義を共有”し実際に行動する ①昨年度のペットボトル調査の結果(荒川ゴミの現状、全国の生産量と一致すること)、②日ごろからできることについて参加者と共有してみてください。	ゴミの発生抑制を意識し、日頃からマイボトルを持ち、環境に配慮した生活を実践しましょう。

個人に求める三つのアクション

### 参加者の声「ペットボトルゴミを減らすアイデア」

- ・ペットボトルを返却することによるキャッシュバック制度を導入すれば良いと思います。海外では行っているはず。勿論、売価にキャッシュバック分を加えるなどの工夫が必要です。
- ・ゴミを抑制するという意識の教育が必要だと思います。ただ、ゴミを持ち帰るとい行いひとつにしても理由をしっかりと伝え、啓蒙することが重要だと思います。
- ・ペットボトル専用のゴミ箱があっても良いのではないのでしょうか？リサイクル率の向上などが見込めます。

### ■ 団体に対して：マイボトルパートナーの募集

マイボトル普及にあたって特に関わりの深い企業・団体の皆様に「マイボトルパートナー」として募集をしたところ、今年は、2つのパートナーシップが実現しました。いわば共通の課題に向かっていくものです。



皆さん、ゴミ拾いお疲れさまです。ところで拾ったゴミの中でペットボトルが一番多いのだそうですね。ペットボトルは手軽で便利ですが、より多くの人たちがペットボトルの代わりにマイボトルを持つようにするとゴミはもっと減ると思います。みんなの荒川がもっともっときれいになるように皆さんと一緒にマイボトルを広めていきたいですね。  
SIGGは荒川クリーンエイドの活動を応援しています！  
(SIGG社日本総代理店 (株)スター商事 佐々木 幸成)



マイボトルの利用を呼び掛ける「みんなでマイボトル運動」を2008年10月から展開しています。運動開始当時の協力店は、オフィスビルの多いさいたま新都心地区のコーヒー店10店舗でしたが、今では県内各地に拡大し388店舗(2011年10月1日現在)まで増加しました。多くの協力店ではマイボトル利用者に、値引きや増量などの特典を設けています。埼玉県では毎月1日を「マイボトルの日」としており、この日に値引きをする協力店もあります。  
(埼玉県環境部資源循環推進課)

## 主催・共催で盛り上がるクリーンエイド

### ■ 日本テレビ等で募集したボランティアと共に ～24時間テレビ「荒川クリーンエイドアクション2011」～

4回目を迎えた「24時間テレビ」チャリティー委員会との共催の活動です。当日は雨の中、雨具や傘をさしながら一所懸命ゴミを拾いました。参加者はゴミを数えることで、身の回りのゴミが多いことを実感。自然環境教室では、野鳥、カニ類、魚、昆虫などを身近に感じることができました。この活動の様子は日本テレビのニュースや情報番組の中などでも紹介され、身近にできるゴミ拾いが生き物たちの暮らす環境を守ることを知っていただきました。



#### 24時間テレビ「荒川クリーンエイドアクション2011」の概要

- 日 時 5月29日(日) 9:00～12:30
- 会 場 小松川自然地(江戸川区・都営新宿線周辺右岸)
- 主なプログラム 9:20～11:30 開会式、クリーンエイドの実践、閉会式など  
11:30～12:30 自然環境教室
- 主 催 「24時間テレビ」チャリティー委員会(日本テレビはじめ民間放送31社)  
特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム
- 協 力 読売新聞 東京本社
- 参加者数 127人



### ■ 王さんも一緒にゴミ拾い ～ふるさと清掃運動会～

ふるさと清掃運動会実行委員会主催のイベントとして昨年に続き荒川でゴミ拾いが実施されました。参加した少年野球チーム、企業、学生、一般の方々などは、漂着して放置されたままの粗大ゴミや900袋以上にもなる大量のゴミを回収し、充実感を味わいました。また、同実行委員会の実行委員長である福岡ソフトバンクホークス会長王貞治氏も参加して、ゴミ袋を手に軍手・長靴姿でゴミを回収しました。



#### ふるさと清掃運動会in荒川の概要

- 日 時 10月30日(日) 13:00～16:00
- 会 場 小松川橋周辺 荒川河川敷(江戸川区)
- 主なプログラム 13:00～13:30 開会式  
13:30～15:30 ゴミ拾い、閉会式など
- 主 催 ふるさと清掃運動会実行委員会
- 共 催 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム
- 参加者数 800人

### ■ 「マイボトル de ゴミ拾い。」を実践! ～下平井水辺の楽校共催クリーンエイド～

流域のモデルとなるべく、下平井水辺の楽校と共催で荒川クリーンエイドを実施しています。2011年は、「マイボトル de ゴミ拾い。」による本格的な「発生抑制型ゴミ拾い」の始動に併せ、ペットボトルゴミの現状とその発生抑制について、体験を通して考えていただく荒川クリーンエイドの運営に努めました。



①「数えながらゴミ拾い」でペットボトルの多さを実感。



②ペットボトル調査で「水・お茶」が半分を占めることを実感。



③SIGGボトルをプレゼント。日頃からマイボトルを持ちましようと呼びかけました。

#### 「荒川でゴミ拾いボランティア&昆虫観察・魚とり」イベントの概要

- 日 時 10月16日(日) 10:00～14:30
- 会 場 下平井水辺の楽校(江戸川区JR総武線下流右岸)
- 主なプログラム 10:00～12:00 趣旨・手順説明、クリーンエイドの実践、ペットボトル調査、ふりかえりなど  
13:00～14:30 投網の見学、魚とり、昆虫観察プログラムなど
- 共催団体 下平井水辺の楽校
- 参加者数 45人

### ■ 荒川クリーンエイドのキックオフ! ～荒川クリーンエイド2011説明会・体験会～

年2回、荒川クリーンエイドをはじめて実施する団体のキャプテンを主対象に、説明会と体験会を実施しています。2011年は、「マイボトル de ゴミ拾い。」の周知と安全管理の徹底に注力しました。



体験会(春)



説明会(秋)

#### 荒川クリーンエイド2011説明会(春)の概要

- 日 時 4月23日(土) 13:30～17:00
- 会 場 荒川知水資料館 アモアホール(岩淵水門広場)
- プログラム 13:30～15:25 説明会(実施方法、安全管理等)  
15:50～17:00 体験会
- 参加者数 説明会 10人、体験会 10人

#### 荒川クリーンエイド2011説明会(秋)の概要

- 日 時 9月10日(土) 10:00～14:30
- 会 場 足立区生涯学習センター(千住新橋付近右岸)
- プログラム 10:00～11:50 体験会  
13:00～14:30 説明会(実施方法、安全管理等)
- 参加者数 体験会 23人、説明会 29人

# 荒川クリーンエイドの仲間たち

荒川クリーンエイド2011は、市民団体、企業、自治体、学校など様々な団体のみなさんによって実施されました。各団体の概要や感想などを紹介します。

会場No. 実施団体名 市民団体 自治体行政 企業 学校 (①実施日 ②参加人数(子ども人数) ③ゴミ袋数(可燃/不燃/ペットボトル) ④粗大ゴミ数 ⑤参加団体)

## 1 秩父市立大滝小学校



滝沢ダム下河原(秩父市)／高野豊子  
荒川の源流にある大滝小学校は、全校児童12名の小さな学校です。毎年、秩父漁業協同組合の方の協力で「秩父ヤマメ」の放流を行っています。「きれいな川で

きれいな水で大きく育てほしい。」という願いもあり、荒川清掃に取り組みました。学校下の河原には、石の間に挟まっているゴミや空き缶があり「こんなにたくさんあると思わなかった。」と驚きました。「絶対ゴミは捨てない。源流から美しく！」と誓いました。

①11/7 ②21(12)人 ③9(5/3/1)袋 ④2個

## 2 NPO 法人秩父の環境を考える会



影森ランド(秩父市)／岩田泰典  
身近なエコ活動にゴミのリサイクルと分別があります。捨てることは簡単です。しかし、

もったいないと思えば再資源化になります。気づくことが、地球を救うことではありませんか？先ずは自分から、更に周りの人と連帯し、行動することで。10月16日40人の影森・久那の地域住民の方々とゴミ調査を実施しました。地域の絆と協力のスクラムによるゴミ調査こそが、明日の子供たちと地球への思いやりです。参加された皆様、誠に有難うございました。

①10/16 ②39(2)人 ③24(18/3/3)袋 ④4個

## 3 秩父教育懇話会(秩父子どもエコクラブ)

高砂橋上流(長瀬町)／新井秀直

今年は、突如、川原に入ることを拒まれ、周辺は崖状で水流が迫っているため安全な場所がなくて、清掃場所探しに難儀した。少し遠くなるが、また狭いが教えていただき、そこで実施しました。

①9/11 ②19(13)人 ③2(1/1)袋

## 4 NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会



熊谷市内河川敷6会場(熊谷市)／栗原寛

11月13日恒例となった荒川河川敷ゴミ拾いが本流河川敷、約8kmに亘り実施されました。この事業の周知についてはチラシの配布、ホームページ及び市報などを活用し、本年も約1800名(うち子ども200名)の参加者がありました。エリア6ヶ所に受付を設け、可燃・不燃・粗大ゴミの3分別としました。本年度もイベントが重なるも新規企業グループ等も加わり多くの参加者に恵まれました。また地デジへの移行年の影響か、家電等の粗大ゴミが目につきました。

①11/13 ②1799(200)人 ③可燃890kg、不燃420kg ④600kg ⑤荒川の恵みと熊谷を考える集い実行委員会(42団体)

## 5,6,7 鴻巣の環境を考える会

鴻巣市では、コウノトリが棲む自然環境を目指しております。今年、荒川御成橋の下流に、コウノトリを育てるビオトープを試作しました。お立ち寄りください。川島秀男



〈5〉大芦橋下流(鴻巣市)  
今年初めて参加してくれた仲間もいて嬉しい。

①11/23 ②3人 ③10(3/4/3)



〈6〉糠田橋下流(鴻巣市)  
インターネットを見て遠方より学生が参加してくれて感動した。

①11/23 ②10人 ③40(10/20/10) ④1個



〈7〉御成橋下流(鴻巣市)  
毎年参加してくれているメンバーが今年も早朝より参加してくれたので嬉しい。精鋭揃いでした。

①11/23 ②3人

## 8 ふれあい市野川クリーンアップ作戦協議会



市野川吉見百穴前(東松山市)／野口健吉  
①11/12 ②770(270)人 ③4000kg(粗大含む)

## 9 市野川水系の会イン滑川町



市野川両家橋周辺(滑川町)／伊藤恭史  
“みんなで市野川をきれいにしよう”という標語で活動している約20名(主に60歳代)の仲間です。

滑川町羽尾地区を昔から手つかずで流れる川ですが、治水工事の折り、蛇行部の自然が専門家の目に留まったのをきっかけに、美しい町づくりの一環と考え、河畔林の保護活動を地道にやっている会です。海の日川の遊びには子ども達約30名が参加しますが、その2週間後にキツネノカミソリが群生することは知られていません。そんな自然を大切にします。

①11/26 ②15人 ③6(2/2/2)袋 ④4個

## 10 NPO 法人荒川流域ネットワーク



荒川太郎右衛門自然再生事業地(川島町)／鈴木勝行  
①11/5 ②14人 ③23(13/7/3)袋 ④40個 ⑤彩の国いきがい大学伊奈学園第17期校友会有志

## 11 NPO 法人荒川の自然を守る会



三ツ又沼ビオトープ(上尾市)／木ノ内勝平  
①10/2 ②23(1)人 ③18(5/10/3)袋 ④29個 ⑤(株)マルデン

## 12,13,14 大谷川クリーン大作戦実行委員会



〈12〉五味ヶ谷地区  
①10/16 ②40(2)人 ③13(10/2/1)袋 ⑤五味ヶ谷めだか学舎



〈13〉太田ヶ谷地区  
①10/16 ②6人 ③19(15/3/1)袋 ④2個 ⑤大谷川源流の会、鶴ヶ島の自然を守る会



〈14〉藤金地区  
①10/16 ②21人 ③39(33/5/1)袋 ④20個 ⑤NPO法人つるがしま里山サポータークラブ、大谷川藤金地区里親の会、鶴ヶ島ロータリークラブ、鶴ヶ島の自然を守る会

## 15,16 NTT 東日本埼玉グループ

さいたま会場(秋ヶ瀬公園)、熊谷会場(荒川大橋南河川敷村岡運動公園周辺)、川越会場(入間川上戸運動公園周辺)のクリーンエイドに参加しました。各会場とも一見きれいに感じましたが、いざゴミ拾いを始めると、空き缶やペットボトル、紙くずなど細かいゴミが散見されました。また茂みの中に粗大ゴミもあり、不法投棄が止まらない現状を目の当たりにしました。NTT 東日本埼玉グループは今後も環境保護活動に積極的に取り組んで参ります。

〈15〉入間川上戸運動公園(入間市)  
①11/13 ②59(6)人 ③50袋 ④5個

〈16〉秋ヶ瀬公園(さいたま市)  
①11/13 ②90(6)人 ③35袋 ④6個

## 17 ダイエーグループ



秋ヶ瀬公園(さいたま市)／田中宏樹  
3社グループは05年より一緒に活動しています。当日は晴天に恵まれ、大人90名、子ども11名の合計101

名が参加しました。秋ヶ瀬公園内の歩道周辺は一見ゴミがないように見えますが、草むらの中には多くのゴミが散乱していました。1時間程度の清掃活動でしたが軽トラック1台分のゴミを回収でき、終了後は清々しい気持ちでお弁当を食べることができました。また、子ども達の笑顔も印象的でした。

①11/12 ②101(90)人 ③24(10/10/4)袋 ④36個 ⑤(株)ダイエー、(株)セディナ、丸紅(株)

## 19 黒目川クリーンエイド実行委員会



黒目川(東久留米市)／菅谷輝美  
今年のクリーンエイドは少年野球連盟との共催で「黒目川クリーンエイドは河童のクウのクリーン作戦」と一気に広がりました。昨年6月に東久留米市は全国で初めてになる「湧水・清流保全都市」として都市宣言を発表し、ゴミが無い綺麗な川がある街にしたいと思う市民が増えつつあるときに、多くの小学生は普段フェンスに囲まれた川に降り立ち、黒目川全域に展開したことは、川沿いにいられた方にも良い効果を上げられました。黒目川・荒川・東京湾を繋ぐアユが都市河川に何時までも生育できる活動にしていきたいです。

①10/23 ②552(234)人 ③79袋 ④7個 ⑤久留米総合高校、東久留米少年野球連盟、公益社団法人東久留米市シルバー人材センター

## 20 (財)埼玉県生態系保護協会戸田・藤支部、戸田市河川課、荒川夢クラブ



戸田橋周辺(戸田市)／石本誠  
昨年から法政大学のボート部、今年も喜沢中学校の生徒たちが参加していただき若い世代の参加が多いのが嬉しいことです。今後も継続して参加されることを期待しております。今年も台風15号直後のため漂着ゴミ特にペットボトルが多いのには驚かされたので「マイボトル de ゴミ拾い。」マイボトル持参を呼びかける良い機会になりました。

①9/24 ②60(21)人 ③52(27/11/14)袋 ④15個 ⑤旭ヶ丘町会、法政大学ボート部、戸田市立喜沢中学校、戸田東シニア、戸田市立南小学校

## 21 川口市建設部建設管理課



荒川運動公園(川口市)／逸見裕子  
天候の悪い中、多くの方々に参加して頂き、感謝しております。参加された皆さんが一生懸命ゴミを拾われており、荒川がこの活動

によってますますキレイになっていこうと感じました。

①11/6 ②162(110)人 ③40(15/14/11)袋 ④1個 ⑤ボーイスカウト川口地区協議会(1団、19団)、青空会、荒川夢クラブ、川口市立西中学校、元郷中学校、原町小学校

## 22,23 荒川夢クラブ



荒川運動公園釣堀池(川口市)／林美恵子  
夢を持ち、楽しみながら自然や環境分野で社会貢献していこうという「荒川夢クラブ」。今回の東日本大震災そ

の後の余震などで行事・イベントやとりくみを自粛中止していました。しかし、4月24日の春の荒川クリーンエイドに参加したいと、ガールスカウトの申し出がありました。それに勇気づけられて実施しました。一般市民、インターネットで検索した大学生も参加してくれ、アットホームな雰囲気で行進し、嬉しかったです。

〈22〉④4/24 ②11(4)人 ③2(1/1/0)袋 ⑥ガールスカウト埼玉59団 ⑦23 ①8/21 ②23(15)人 ③4(2/1/1)袋

会場No. 実施団体名 市民団体 自治体行政 企業 学校 (①実施日 ②参加人数(子ども人数) ③ゴミ袋数(可燃/不燃/ペットボトル) ④粗大ゴミ数 ⑤参加団体)

## 27 板橋グローブクラブ



**戸田橋緑地(板橋区)／青木映子**  
板橋グローブクラブは、板橋区内の小中学生が集まって環境に関する活動をしているクラブです。自然観察や環境実験、リサイクル工作、エコ

クッキング等を通して環境について学んでいます。クリーンエイドではみんな熱心にゴミ拾いをしました。特にベンチや石段の周りにはタバコのすいがらが多く、マナーの悪さが目立っていました。クリーンエイドでは荒川の環境を考えるよいきっかけになりました。

①11/12 ②15(9)人 ③3(1/1/1)袋

## 28,29 いたばし野鳥クラブ



**板橋生物生態園(板橋区)／栗林菊夫**  
今回は、センスオブアースや板橋水辺を楽しむ会の参加がありました。昨年は中国留学生の参加がありましたが、震災の影響で無く、その分参加者数が少なかったです。ただ、天気も良く楽しく行う事が出来たし、クリーンエイドのホームページを見て大学生の参加があり、嬉しかったです。

①4/17 ②32(1)人 ③16(10/4/2)袋 ④8個  
⑤板橋水辺を楽しむ会、センスオブアース

①10/30 ②57(9)人 ③39(14/15/10)袋 ④17個

## 30,31 板橋水辺を楽しむ会



**板橋生物生態園(板橋区)／梅村松秀**  
ゴー！ゴー！ボランティア2011の協賛行事として、8月6日～7日、生物生態園と中規模自然地对象としたひこばえ切りと草刈、周辺の生き物観察活動、その準備としてゴミ拾いをしました。

参加者は、成人、小学生とその保護者、さらに国書日本語学校に在籍の中国からの看護留学生の皆さん、あわせて40人余りの参加を得ることができました。きびしい日照りと湿気のなかでしたが、充実した2日間との評価を得ました。

④5(2/2/1)袋 ③0 ①8/6 ②29(10)人 ③1 ①8/7 ②29(10)人

## 32 都立桐ヶ丘高等学校



**新荒川大橋上流(北区)／小嶋広行**  
チャレンジスクールである本校では、毎年11月に地域交流の日として、3・4年次生が北区水辺の会ほかの指導のもと、実施しています。生徒たちは集めたゴミ袋の多さを目にして驚きと達成感を持ちます。広い荒川の風景の気持ちよさを感じ、自然を大切に

する心が育ってくることを学校として期待しています。

①11/1 ②73人 ③21(5/9/7)袋 ④北区水辺の会、北区ボランティア

## 33～36 北区水辺の会



**北区・子どもの水辺(北区)／太田桐正吾**  
東京都北区に在る、北区・子どもの水辺「水辺の楽校」で毎月第3土曜日に定期活動を実施しています。活動内容として、水辺清掃をはじめ、除草、杭打ち、自然観察調査、ワンドのヘド口除去等多岐に渡っております。他にも不定期活動として、教育団体等へのサポートをしております。発足して満10年が経過しましたが身近な自然を大切に想う人が増加する事を願っております。

⑤東京家政大学、(株)エクシング、北区水辺クラブ  
③3 ①5/22 ②190(4)人 ③45(6/31/8)袋 ④3個  
③4 ①10/15 ②44(39)人 ③7袋  
③5 ①11/19 雨天中止  
③6 ①12/17 ②16人 ③37袋

## 37 豊島区立南池袋小学校



**北区・子どもの水辺(北区)／江崎淳一**  
子どもたちの輝く目。荒川の恵みを受けている植物、虫などの生き物を感じ、南池小の4年生は喜んでいました。「水とのかかわり」の学習では、学校の蛇口調べから浄水場見学をしての今回の学習。ゴミ拾い、自然観察、魚とりをしました。体験を通して、全身で荒川を感じ取ることができました。学習が深まったように思います。また、身近な自然「荒川」を守っているスタッフの方と出会えたことも大きな学習でした。

①6/22 ②103(83)人 ③15(4/6/5)袋

## 38 北区水辺クラブ

**北区・子どもの水辺(北区)／松下正義**

ご報告をいくつか。○通称「小池」脇の台地上の大柳(所謂シダレヤナギ)の天辺にモズ1羽(雌雄は不明)がいろいろ声色を使い分けて囀っていた。○冬鳥の飛来は皆無。○草っぱらバツタとすだく虫の季節である。○ショウリョウ、トノサマバツタが湧生。立ち枯れ始めたヨシの間から草ヒバリやコオロギの鳴き声。○トンボは週初に比べて激減、正午に近くポカポカ陽気のためか、キチョウが数多く湧いた。

①10/8 ②3人 ③3(1/1/1)袋 ④2個

## 39 日本工営(株)



**新荒川大橋(北区)／塩見真矢**

5月14日(土)、東京都北区の荒川河川敷において、今回初めて荒川クリーンエイドを実施しました。当日は、社員とその家族が参加しました。清掃の後は、近くのバーベキュー場でバーベキューを行い、福島県産の食材を食べ、大いに盛り上がりました。清掃場所は、比較的きれいな場所でしたが、水際付近には発泡スチロール等の漂着ゴミが多く、継続的な清掃活動が必要であることがわかりました。来年度は、自然観察会等の環境学習も併せて実施したいです。

①5/14 ②41(12)人 ③5(2/2/1)袋 ④6個

## 40 北区



**岩淵関緑地(北区)／中根正一**  
今年度初めて担当させていただきました。当日は朝まで雨が降っていたため、参加者は昨年より減ってしまいましたが、25℃を超す暑さの中、皆さん汗を拭いながら懸命に清掃活動に取り組んでおられました。北区には町会・自治体・企業とも荒川の保全活動に熱心な団体が多く、ゴミの量も減ってきています。今後とも荒川の水辺環境保全に向け、クリーンエイド活動を継続的に行って参りたいと思っています。

①10/16 ②319(21)人 ③125(57/47/21)袋

## 42,43 ボーイスカウト東京連盟



**岩淵水門広場(北区)／渡辺英敏**  
地区内のボーイスカウト北11団、北1団とガールスカウト東京124団合同での地域への奉仕活動を行ったことに非常に有意義でありました。今後、この輪を広げていきたいと思っています。また、当日駆けつけてくれました、川口の方、本当にありがとうございました。来年も会場でお待ちしております。

⑦ボーイスカウト北11団、ガールスカウト東京124団  
④2 ①6/26 ②47(27)人 ③3袋  
④3 ①9/18 ②54(30)人 ③3(1/1/1)袋

## 44,45 尾久の原愛好会



**扇大橋下流(足立区)／金沢寛**  
荒川区にある工場跡から出てきた原っぱのような都立公園で植物の観察や保護活動をやっています。毎月1度の定例観察会を活動の中心としながら小学校への出張講義や遠出の観察会をやっています。尾久の原公園の将来はどうあるべきかをみんなで考えていきます。

④4 ①6/5 ②7人 ③6(3/2/1)袋 ④5 ①10/23 雨天中止

## 47 みずほ証券(株)



**西新井橋上流(足立区)／市原しのぶ**

今回、荒川クリーンエイドの活動に初めての参加です。生活に密着している荒川の清掃活動を通じて、環境問題をより身近に感じることができました。また、参加した社員にとって、改めて環境保全活動を考えるよい機会でした。今後ともこの活動を継続的に行っていきたいと思っています。

①12/4 ②32(5)人 ③40(26/7/7)袋 ④9個

## 48 日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)



**西新井橋上流(足立区)／三浦哲**  
日本ケンタッキー・フライド・チキンです。外食産業の会社として、日々業務で当社で排出するゴミに関しては社会の中でどのように処理されていくか、ということ

は会社で働く全員が認識すべきと判断しています。今後ともこのようなクリーンエイドの機会を通じて、環境保全について取り組み姿勢を高めたいと希望します。

①11/4 ②16人 ③7(3/3/1)袋 ④3個

## 49 日本サムスン(株) デザインチーム



**西新井橋上流(足立区)／堀口綾**

晴天で少々汗ばむような陽気の中、活動をスタートした。初めて参加した活動とあって、実施エリアの特定や、いざ開始となった時の段取りに少々手間取ったが、参加人数が少なかつたにもかかわらず、皆さんのゴミを回収でき、有意義な活動になったことを実感した。普段の生活からは思いもよらぬゴミの種類の豊富さに圧倒される反面、河川敷付近で暮らす住民の方々や自然の生き物に対する配慮に関して考えさせられる一日だった。

①10/8 ②7人 ③12(5/4/3)袋

## 50 SMC シビルテクノス(株)



**西新井橋上流(足立区)／初村清一**

私達は土木工事その他橋梁工事などを生業にしている会社です。少人数ではありますが企業ボランティアをして荒川クリーンエイドに昨年加入させていただきました。これまでは地元団体が行う地区一斉清掃を中心に切手収集活動などを通じ社員有志の社会貢献への意識高揚を目的に活動して参りました。この度はじめて企業単独での清掃活動を行ったことで参加者全員が自ら行動する活動の重要性をさらに深めることができました。

①10/29 ②12人 ③28(10/9/9)袋 ④4個

## 51 (株) ガリバーインターナショナル



**西新井橋上流(足立区)／荒木博邦**

今回は2011年度の新卒新入社員研修の一環で実施。弊企業理念「Growing Together」の体現を目的とし参加させて頂きました。事前打ち合わせの段階から弊社の無理難題に柔軟に対応していただき大変感謝しております。我々も甘く見ておりましたが、当日は想像を絶するゴミの量に絶句しながらも単純にゴミを拾うだけでなく、調査・ならびにワークショップを行うことで環境問題と本プログラムの目的を十分に熟考することができました。大変素晴らしい活動に参加させていただき、誠にありがとうございました。

①4/24 ②99人 ③238(126/43/69)袋 ④68個

会場No. 実施団体名 市民団体 自治体行政 企業 学校 (①実施日 ②参加人数(子ども人数) ③ゴミ袋数(可燃/不燃/ペットボトル) ④粗大ゴミ数 ⑤参加団体)

## 54 台東区教育委員会青少年スポーツ課



千住新橋上流(足立区) / 奥山良樹

毎年、荒川のグラウンドを利用している台東区軟式野球連盟と台東区サッカー連盟の選手と指導者の皆様に参加していただき、グラ

ウンドを中心にゴミ拾いを実施しました。グラウンド内にはゴミが少なかつたため、グラウンド外の草むらや堤防まで積極的にゴミを拾いに行く子供たちを頼もしく思いました。この気持ちを忘れず、自然環境を大切にできる大人になるよう、子ども達に期待しています。

①11/26 ②30(25)人 ③12(4/4/4)袋 ④1個  
⑤台東区少年軟式野球連盟、台東区サッカー連盟(台東区スポーツ少年団)

## 58 三井住友海上プライマリー生命保険(株)

千住新橋下流(足立区) / 朝倉まどか

ゴミ拾いの中で参加者が協力して行う行為に一体感と達成感があり、とても充実した時間を送ることができました。ゴミ拾いを行っている間、河川敷でスポーツを楽しんでいる方々が多数いらっしゃいましたが、「お疲れ様です」と何度となく声をかけられたことが、大変励みになりました。

①10/29 ②57(9)人 ③59(42/9/8)袋 ④5個

## 59 (学)足立学園中学高等学校



堀切橋～千住新橋(足立区) / 高橋弘和

私たちの中学校では、荒川河川敷を授業で使ってい

ます。商店街の真ん中に位置する私たちの学校は校庭がとても狭いため、荒川河川敷はなくてはならない存在です。そんな荒川河川敷の清掃活動は毎年恒例の行事です。生徒たちは汗だくになりながらも、たくさんゴミを集めてきます。いつもお世話になっている荒川河川敷に恩返しできたいでしょうか。

①6/24 ②468(444)人 ③61(24/21/16)袋 ④12個

## 60 足立成和信用金庫



千住新橋緑地(足立区) / 齋藤貴子

足立成和信用金庫では、社会貢献活動の一つとして10月1日(土)参加者208名で荒川土手清掃を行いました。毎年

活動を行っていて嬉しいことは、年々ゴミの量が減ってきていることです。当金庫職員の方々にも土手清掃を通して自然環境に関心を持ち、何かを感じて頂ければと思います。

①10/1 ②208(5)人 ③42(25/7/10)袋

## 61 足立区、足立区荒川ビジターセンター



千住新橋緑地(足立区) / 足立区公園整備課

前日からの雨の影響により、区のイベントとしては残念ながら中止とさせていただきますでしたが、知らず知らず

方、雨でも実施したいという方、区職員の計12名の小規模で実施しました。参加希望を頂いていた300名を超える皆さんには、「荒川をきれいにしたい」という思いを大切に、今後とも荒川を見守り、ご協力いただきたいと思います。

①10/23 ②12人 ③5(2/1/2)袋 ④6個

## 63 あらかわエコフレンド



隅田川白鬚橋(荒川区) / 押川賢次郎

秋のクリーンエイドは、水質とゴミ拾いを実施していますが、毎回ゴミ拾い後の調査カード記入に理解を得られず苦労しています。

①10/23 ②13(1)人 ③11(9/1/1) ④4個

## 64 隅田川市民交流実行委員会



隅田川吾妻橋～桜橋(台東区) / 糸井守

開催3回目にして知名度も上がり、企業組織の参加者も増え大人数になりました。当日は

は曇りとの予報の基に実施したが受付が終了するころから雨が降り出し、作業を始めたが雨と風がひどくなり、途中で切り上げました。終了の挨拶も早々に切り上げて散会となりました。

①10/15 ②53(2)人 ③12(7/3/2)袋

## 66 一般財団法人 アールビーズスポーツ財団



堀切水辺公園(葛飾区) / 柴田光

葛飾区堀切水辺公園をメイン会場に開催された「荒川30K 秋大会」において、大会の応援者、サブイベントの「キッズラン」に参加した子

ども達やその家族、ボランティアの方々に参加してゴミ拾いを行いました。マラソン大会と同時に開催することで、ランナーの方々に清掃活動について考えていただくきっかけにもなります。弊財団は「市民スポーツイベントにおける環境保護活動及び支援」を事業内容の一つに掲げ、今後も清掃活動をしていきたいと考えています。

①10/8 ②19(5)人 ③12(7/3/2)袋 ④3個

## 68 あらかわミズガキ隊

四ツ木橋周辺(葛飾区) / 橋本浩基

①4/16 ②184(159)人 ③72(35/22/15)袋 ④65個  
⑤葛飾区立中川中学校、JUNEC

## 69 リコーテクノシステムズ(株)



木根川橋周辺(葛飾区) / 鳴島里美

私達リコーテクノシステムズは、全国に拠点があり各地域で一人ひとりが、自ら積極的に環境保全活動に参加し取り組んでいます。

荒川クリーンエイドに参加して、ゴミの多さに驚きましたが、その環境の中、力強く生息している昆虫を多く見ることができ感動しました。生物がすみやすい環境になるように今後とも活動を継続していきたいと思っています。

①11/12 ②26(3)人 ③10(5/3/2)袋 ④6個

## 70 (株)新生銀行



木根川橋周辺(葛飾区) / 白井裕美子

新入社員の環境意識や社会性の向上、チームワーク力の育成を目的に、荒川クリーンエイド・フォーラムの協力を

得て、体験型環境・CSR研修に参加しました。新社員からは、「実際に現場を見ないと、どのくらいゴミ問題が深刻か分からなかった。体験できて良かった。直接ゴミ拾いをして、環境に対する意識が深まった。このような活動に今後も参加したい。」などの感想が寄せられました。

①4/20 ②23人 ③53(31/7/15)袋 ④24個

## 72 一般社団法人 東京損害保険代理業協会



あらかわ水辺公園(葛飾区) / 武舎利幸

一般社団法人・東京損害保険代理業協会と申します。今年

は主催団体として4回目のクリーンエイドでした。昨年までは好天に恵まれていたのですが、今年は雨と強風に悩まされました。開始時刻には雨は小降りになったのですが、強風は止まず、「カウントしながらのクリーンエイド」ができませんでした。それでも、事故やトラブルもなく、無事にクリーンエイドを終えることができ、良かったと思っています。

①2/10/15 ②32人 ③35(19/10/6)袋 ④7個

## 73,74 (株)エックスワン



四ツ木橋上流(墨田区) / 松本龍詞

今回で7回目となりますが、毎回参加の方も多く、熱意を持って活動しています。初回から参加のメンバーは、

最初に比べてゴミが減っているという実感があり、自らの行動がささやかでも環境をよくすることに繋がっているという達成感を感じているので、それを周囲の人に話すことで生活する市民の意識を少しずつも変えていき、環境を守っていく大きな動きを助けたいと思っています。継続は力なり、です。

〈73〉①5/14 ②68人 ③101(57/21/23)袋 ④24個  
〈74〉①11/12 ②63(2)人 ③82(50/18/14)袋 ④45個

## 75 墨田区



八広運動場～緑地競技場(墨田区) / 南部友孝

子どもから大人まで、多くの人が集まってくれてよかったです。普段使用

している荒川がきれいになることによって、もっと使いやすくなると思います。このような活動を続けることにより、ゴミを捨てにくいきれいな荒川になればと思いました。

①10/29 ②153(100)人 ③78(40/20/18)袋

## 76～79 ブルームバーグL.P.



京成押上線鉄橋上流(墨田区) / 野口有紀

ブルームバーグの社会貢献プログラムは、当社の企業文化の中核となっており、世界202ヶ所で慈善事業や非営利団体の支援をして

います。日本では多岐にわたる社会貢献プログラムの一環として、2008年より荒川クリーンエイド・フォーラムとともに、荒川清掃を年4回行っています。今後もこの活動を通じて、荒川に生息する生物にとっても棲みやすい環境を整え、更に個人々の環境に対する意識向上に努めていきたいと考えています。

〈76〉①4/21 ②16人 ③44(22/9/13)袋 ④20個  
〈77〉①8/3 ②21人 ③12(9/2/1)袋 ④3個  
〈78〉①10/14 ②6人 ③16(10/3/3)袋 ④5個  
〈79〉①12/21 ②4人 ③7(5/1/1)袋 ④6個

## 80 東海東京フィナンシャル・グループ



京成押上線鉄橋周辺(墨田区) / 石田和則

東海東京アカデミーでは、グループ会社の新入社員研修の一環として、昨年に引き続き荒川

クリーンエイドに参加しました。新入社員研修は「学習と貢献」をメインテーマにして実施しておりますが、この活動に参加したことにより、肌で感じる

①5/21 ②78人 ③67(38/13/16)袋 ④17個

会場No. 実施団体名 市民団体 自治体行政 企業 学校 (①実施日 ②参加人数(子ども人数) ③ゴミ袋数(可燃/不燃/ペットボトル) ④粗大ゴミ数 ⑤参加団体)

## 81,103 日本アイ・ビー・エム(株)



京成押上線周辺  
(墨田区) / 川嶋輝彦

2011年は弊社本社の創立100周年を記念し、全世界の社員ひとりひとりが「企業市民」として地域への感謝をボランティア活動

で実践する1年となりました。2008年から毎年恒例となっている当活動は、荒川の生態系を守る「荒川ネイチャーエイド」活動と位置づけ、社員の環境への関心を高めるアイコン的活動となっています。参加者はマイボトルを持参。ペットボトルゴミへの理解を深めつつ、荒川の豊かな自然を体感しました。

〈81〉 ①6/18 ②35(6)人 ③55(28/13/14)袋 ④45個  
〈103〉 ①12/3 雨天中止

## 83 一般財団法人 建築ビジョン

京成押上線周辺(墨田区) / 山田義博  
①10/29 ②33(2)人 ③39(22/9/8)袋 ④1個 ⑤渡辺パイプ(株)

## 84 SMBC日興証券(株)



京成押上線下流  
(墨田区) / 山田昌輝

SMBC日興証券では「Green Week」という環境保全、社会貢献活動強化期間を設

け、活動への参加を通じて、CSRへの理解及び地域社会や参加者同士の交流を図っています。2回目の参加となる今回は155名が参加しました。想像以上のゴミの多さに驚きの声も多く、清掃活動の大切さを実感しました。また、一人ひとりが少しでもゴミを出さない、捨てないようにすることも大事なのだという気付きにもなりました。

①10/29 ②155(10)人 ③195(97/33/65)袋 ④69個

## 85 (株)かんぼ生命保険



木根川橋周辺(墨田区) / 田村政一

かんぼ生命では、12月4日(日)木根川橋周辺(墨田区八広側)で、当社では初めてとなる荒川クリーンエイドを実施しまし

た。参加者はペットボトル、飲料ビン、レジ袋などゴミの多さに一様に驚いた様子でしたが、活動した場所が目に見えてきれいになり、活動後はすがすがしい気分を味わうことができました。きれいになった河川敷で、えさをついばんでいる野鳥の姿がとても印象的でした。

①12/4 ②14(1)人 ③33(15/11/7)袋 ④15個

## 87 小松川信用金庫



平井大橋周辺  
(江戸川区) / 堀越康

今回は、平井大橋の上流を清掃しました。前回に比べて全体

的にはゴミの量は少なかったと思います。ただ、タバコの吸いながら多く、その他にはバイク、自転車、車のタイヤ等があり一人ひとりのマナーが重要だと思いました。また前回と場所の違いからペットボトルの数は減っていましたが、やはり家庭ゴミの多さには驚きました。

①6/4 ②109(2)人 ③50(22/15/13)袋 ④7個

## 88 TM

平井大橋周辺(江戸川区) / 村山哲章  
①8/22 ②3人 ③3(1/1/1)袋

## 89 ローソングループ



平井大橋上流(江戸川区) / 伊藤義人

今回で17回目の活動となりました。当日は、ローソングループ各社、お取引先さまの社員や家族など100人(大人75人・子ども25人)が活

動に参加しました。開始直前の雨によりプログラムを短縮しましたが、散乱ゴミ42袋と粗大ゴミ12点を回収することができました。清掃活動後は、環境問題や荒川の自然に関するクイズ大会を行い、参加者に楽しみながら学んでもらいました。

①11/6 ②100(25)人 ③42(22/14/6)袋 ④12個  
⑤(株)ローソン、ローソンユニオン、(有)KMS、ローソングループ各社

## 90~92 下平井水辺の楽校



下平井水辺の楽校(江戸川区) / 中嶋美南子

台風15号による上流からの大量のゴミ、いつもの荒川とは違う様子にびっくりしていた。柳の大木、小型ボートを大勢で引き上げた。力のいるゴミの回収に

汗を流し、満足げであった。また一人では無理な事もみんなと協力して、知恵を使うことも体験できた。「あら!!! びっくり池」ではトビハゼの稚魚等をたくさん見つけることができた。UPS社員のみなさんが昨年に続き参加した。

〈90〉 ①4/9 ②6人 ③8(6/2/0)袋 ④13個  
〈91〉 ①6/5 ②41(20)人 ③22(17/2/3)袋 ④18個  
〈92〉 ①10/16 ②45(7)人 ③38(19/8/11)袋 ④18個  
⑤ユービーエス・ジャパン(株)

## 93,94 江戸川区立平井東小学校



下平井水辺の楽校(江戸川区) / 山田直人

本校では8年前より荒川学習に取り組んでおり、クリーンエイドも率先して活動しております。ただゴミ

拾いするだけでなく、ゴミが荒川の自然や生態系にどのような影響を及ぼすのか考えさせることもできました。8年間の積み重ねが、子ども達の荒川への意識を高めています。

〈93〉 ①2/22 ②45(43)人 ③12(4/4/4)袋 ④13個  
〈94〉 ①11/14 ②111(105)人 ③26(13/8/5)袋 ④17個

## 95 江戸川区立小松川小学校

下平井水辺の楽校(江戸川区) / 中村真澄  
①9/13 ②65(62)人 ③37(12/13/12)袋

## 96 江戸川区立平井小学校



下平井水辺の楽校(江戸川区) / 中村真澄

平井小学校4年生の「総合的な学習の時間」の一環として、クリーンエイドに参加させていただきました。これまでに

も、子ども達は昆虫探しや植物観察などで荒川を学習していましたが、今回のゴミ拾い・調査をすることで、「荒川を大切にしたい」という気持ちが強まったようです。引率した職員一同も、参加した子供たちが社会に出るころには、もうゴミを拾う必要がないクリーンな荒川になっていることを願っています。

①10/14 ②54(46)人 ③23(11/5/7)袋 ④2個

## 97 小松川平井連合町会

木下川排水機場~ロックゲート(江戸川区) / 谷川貞夫  
①11/13 ②600人

## 98 ふるさと清掃運動会実行委員会、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム



小松川橋周辺(江戸川区) / 亀山久雄

著名人からなる「富士山大好き!百人の会」が、故郷の山や川や海、街など身近なところから環境アクションを起こそう!と呼び

かけた「ふるさと清掃運動会」は全国で実施され、今年は約3万人が参加。何度もの下見の結果、甚大なゴミの量で荒川小松川橋周辺での実施を決めました。当日は、地元住民、少年野球の子どもたち、東芝ソリューション(株)からは従業員や家族らも大勢参加。実行委員会委員長である王貞治氏ら著名人も参加しました。

①10/30 ②800人 ③931(544/202/185)袋 ④310個

## 99 江戸川・生活者ネット、ガールスカウト215団



船堀橋上流(江戸川区) / 原田真佐子

9月の台風や前日等の雨の影響なのでしょうか、かなりのゴミの数が川原に集まっていた。驚いたのは粗大ゴミの種類と数量の多さ

です。ブラウン管テレビは6台、冷蔵庫も食洗機もあります。上流から流されてきたのだらうと思わせるものは自転車が骨だけになっている姿や、棧橋の人が降り降りする部分だけがあることです。ペットボトルもかなりの量が流れ着いた姿で集まっていた。

①10/23 ②30(16)人 ③40(12/12/16)袋 ④28個

## 100,101 島村運輸倉庫(株)



船堀橋上流(江戸川区) / 澤村隆

5月に引き続き、11/12日に今年度2回目のクリーンエイドを実施させていただきました。今回の参加者は日ごろお

世話になっている人や、呼びかけに応じてくれた中学生、社員を含め、総勢107名になりました。また、午前中のゴミ拾いに続き、午後より草刈りも行いましたが、ほとんどの方が、午後の作業も参加してくれました。参加者の感想を聞くと、今年は台風の影響などで、「大きいゴミが多い」とか「相変わらずペットボトルが多い」という感想を多く聞きました。今後も豊かな自然を残すため、たくさんの方々に参加を呼び掛けていきたいと思います。

⑤小岩四中、松江五中、古田土会計事務所、駿河屋、篠崎中学校  
〈100〉 ①5/1 ②142(55)人 ③111(77/9/25)袋 ④24個  
〈101〉 ①11/12 ②111(15)人 ③138(77/26/35)袋 ④34個

## 102 日本クラフトフーズ(株)



船堀橋下流(江戸川区) / 御園麻耶

日本クラフトフーズはガムのクロレツなどを製造販売しているアメリカの会社です。毎年「Delicious

Different Week」とって日本を含む全世界のクラフト社がボランティア活動を実施しています。その一つとして、今回は36名で荒川の清掃活動と外来種であるオオバクサの除草を行いました。今年は台風の影響でゴミが多かったためか、約1時間で49袋のゴミと18袋の粗大ゴミを集めることができました。一人だと時間がかかることも、みんなで協力するとあっという間に終わり、協力することの大切さとゴミをできるだけ出さないようにする必要性を実感することができました。

①②10/4 ③36人 ④50(27/7/16)袋 ⑤18個

## 104 ジョンソンコントロールズ(株)



船堀橋下流(江戸川区) / 高橋国大

ジョンソンコントロールズでは、Blue Sky Involveプログラムとして、環境保護(資源の効率活用)、従業員のリーダー育成を目的に地域社会と環境保護に

フォーカスしたボランティア活動を支援し、各種イベントに参加しています。社内の有志とその家族が集まり、昨年に続き荒川クリーンエイドに参加しました。ゴミの量が多く拾い集めるのに苦労しましたが、いろいろ学べて、充実した時間を過ごせました。

①11/3 ②21(5)人 ③36(20/8/8)袋 ④36個

会場No. 実施団体名 市民団体 自治体行政 企業 学校 (①実施日 ②参加人数(子ども人数) ③ゴミ袋数(可燃/不燃/ペットボトル) ④粗大ゴミ数 ⑤参加団体)

**105 「24時間テレビ」チャリティー委員会、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム**



**都営新宿線周辺(江戸川区)／神成尚亮**  
5月29日(日)、「24時間テレビ」の地球環境保護支援の一環として、ACFとの共催で「荒川クリーンエイドアクション」を実施しました。4度目の開催となった今年は、生憎の雨模様の中127人の参加者と109袋分の散乱ゴミ、テレビやミシンなど32点の粗大ゴミを回収しました。清掃活動後には環境教室を実施。荒川河川敷に生息する生き物・植物と触れ合いながら、人の手によって「守られる環境」と「壊される環境」について考える時間にもなりました。  
①5/29 ②127(14)人 ③109(57/26/26)袋 ④32個

**106 住友生命保険(相)**



**都営新宿線周辺(江戸川区)／柳田将**  
住友生命では、「CSR経営方針」の枠組みの一つである「スマセイ環境方針」を踏まえ、職員による環境ボランティア活動を実施しております。今回の活動には、地球環境保護に取り組むとともに、職員のボランティアマインドの一層の醸成を図るために参加いたしました。河川敷のゴミの多さに驚くとともに、ゴミの排出について考える好機となりました。この度のクリーンアップ実施にあたり、多大なるご協力いただきました。誠にありがとうございました。  
①11/5 ②435人 ③457(232/94/131)袋 ④113個

**108,109 江戸川区立大杉小学校**



**中土手五色池(江戸川区)／清水剛太**  
江戸川区立大杉小学校です。本校では3・4年生が、総合的な学習の時間で、環境教育の一環として、年4回荒川中土手探検を行っています。その中でクリーンエイド活動をしています。身近なゴミ。私たちにとってはささいで、1つのゴミにすぎないかもしれない。だけどそのゴミで生物はけがをし、命の危険にさらされることもあります。川や池の水も汚されています。こんなことを一緒に考えながら、子どもたちの生活に生かす取り組みです。  
〈108〉①7/5 ②102(94)人 ③6(3/3/0)袋  
〈109〉①10/13 ②104(95)人 ③8(5/3/0)袋 ④9個



**113 都漁連内湾釣漁協議会、葛西東渚・鳥類園友の会、NPO法人えどがわエコセンター**  
**葛西海浜公園東なぎさ(江戸川区)／飯田陳也**  
東京都の内湾にある6つの漁協の青年部が始めた海浜の清掃活動の呼びかけに、臨海公園で探鳥会を続けていた野鳥の会のメンバーが人集めを担当してスタートした。現在では鳥類園友の会が人集めの中心となり荒川クリーンエイドの一端を担っている。  
①11/8 ②110人 ③47(29/6/12)袋 ④20個

**110 中土手に自然を戻す市民の会**



**中土手五色池(江戸川区)／佐藤正兵**  
今年は台風15号の影響で荒川本流の護岸にたくさんのゴミが打ち上げられ、それをみんなで拾いました。大きな柳の木が折れたり倒れたりして後片付けが大変でした。また、3.11地震では液状化で砂が吹き出しました。中土手の会は、1996年からここを管理していますが、こんな事態は初めてです。環境学習で季節ごとに訪れる大杉小学校3.4年の子どもたちが近くに「ゴミを捨てないで」と看板を出してくれました。効果のほどは?  
①②11/20 ③13(5)人 ④8(4/2/2)袋 ⑤10個

**111 江戸川区土木部計画課、NPO法人えどがわエコセンター、いきごみクラブ**



**葛西橋上流(江戸川区)／木村実**  
ペットボトルや食品のトレイなど日常生活で使用しているゴミが非常に多いことが分かった。日頃から使い捨て容器を使わないように意識改革が必要だと思います。  
①11/5 ②22人 ③40(24/4/12)袋 ④2個 ⑤松尾建設

**112 NPO法人えどがわエコセンター 自然共生社会づくり委員会**



**葛西海浜公園東なぎさ(江戸川区)／中嶋美南子**  
葛西海浜公園東なぎさは、一般には立ち入りの出来ない自然保全地で、2001年から地元の内湾漁協と東渚・鳥類園友の会が中心となってゴミ拾いを始め、2004年からえどがわエコセンター自然委員会が船をチャーターして年1回クリーン作戦を実施している。今回は大型冷蔵庫や魚網などの粗大ゴミが多く見られたが、一般的にはゴミの量は減少しており、絶滅危惧種のカラシラサギの飛来もみられ、自然の回復が進んでいることが分る。  
①6/25 ②58(2)人 ③26(15/5/6)袋 ④12個

**114~121 西なぎさ発：東京里海エイド**



**葛西海浜公園西なぎさ(江戸川区)／橋爪慶介**  
9月に入り関東地方で豪雨が続き、河川からの大変たくさん多くの漂着ゴミが漂着していました。粗大ゴミも多く、今年最多量のゴミの量でした。2時間半を超えるクリーンアップで、目につく漂着ゴミはほとんど収集することができました。個人参加で初めて参加された方も多く、ゴミの多さにインパクトが強かった様子で、循環型社会を築き上げていくことの大切さを身をもって実感していただけた様子でした。  
⑤日本野鳥の会東京、リコーテクノシステムズ(株)、TOTOエンジニアリング(株)、WDAJ、ハイレル、TOTOメンテナンス(株)  
〈114〉①4/16 ②9人 ③6袋 ④6個  
〈115〉①5/21 ②22人 ③14袋 ④6個  
〈116〉①6/18 ②26(2)人 ③34袋 ④9個  
〈117〉①7/16 ②22(3)人 ③26袋 ④2個  
〈118〉①8/20 ②21(5)人 ③43袋 ④15個  
〈119〉①9/17 ②77(6)人 ③102袋 ④37個  
〈120〉①10/15 雨天中止 ②11/20 ③19(4)人 ④17袋 ⑤9個

**122 江東区土木部水辺と緑の課**



**葛西橋下流(江東区)／広川隆司**  
集合時の天候が小雨だったため決行としたが、開始と同時に本降りの雨になってしまった。そのため、参加者が少なかったことが残念な点である。しかしながら、参加者の方々のご協力もあり、ゴミ回収の成果は大いにあげられた。参加者の方々からは「大小問わず生活ゴミが多くて驚いた。」「粗大ゴミよりも小さな生活ゴミが気になった。」といった声が寄せられ、身近な生活ゴミの環境への影響について考える機会となった。  
①11/19 ②18人 ③12(6/4/2)袋 ④6個

**123 佐川急便(株)**



**荒川砂町水辺公園(江東区)／柴重徳**  
佐川急便では、さまざまな環境保全活動や環境啓発活動を実施しています。その中で、地域美化を目的に「クリーンアップデー」に取り組んでおり、その延長として荒川クリーンエイドに参加させていただきました。2回目となる今回は、清砂大橋周辺の清掃活動を行いました。そこでは、家庭ゴミをはじめ、さまざまな種類のゴミが大量に散乱しており、特に川沿いに集中していました。今後も周辺地域の環境を守る活動を続けていきたいです。  
①10/1 ②15人 ③30(11/7/12)袋 ④5個

**124 (株)りそな銀行 首都圏地域**



**清砂大橋下流(江東区)／中町友一**  
今回で4回目の参加となり、昨年同様700人余りのボランティアで、清掃活動を行いました。秋の晴天にも恵まれ、清々しい気持ちで実施することができました。全体としては、昨年よりゴミが減ったという意見が多いものの、川沿いにある石の間に、かなりゴミが詰まっているとの感想も多く寄せられました。一人一人が環境への意識を高めると共に、今後も地元での社会貢献活動を継続して参りたいと考えております。  
①11/12 ②740(40)人 ③189(101/55/33)袋 ④43個

**125~127 江東エコリーダーの会**

**新砂干潟(江東区)／本多忠之**  
〈125〉①5/21 ②22(1)人 ③18(9/6/3)袋  
〈126〉①7/24 ②42(16)人 ③15(8/7)袋 ④7個  
〈127〉①11/20 ②15人 ③37(32/5)袋 ④12個

**41,55~57 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム**

〈41〉岩淵赤水門周辺(北区) ①4/23 ②10人 ③5(3/1/1)袋  
〈55〉千住新橋周辺(足立区) ①8/9 ②3人 ③12(4/4/4)袋  
〈56〉千住新橋周辺(足立区) ①9/10 ②21(1)人 ③18(12/2/4)袋 ④12個  
〈57〉千住新橋周辺(足立区) ①11/26 ②11人 ③26(15/2/9)袋 ④12個

★以下は雨天中止、または2012年1月以降に延期  
(①実施予定日 ②参加予定人数)

**18 黒目川に親しむ会**

黒目川・浜崎黒目橋(朝霞市)／藤井由美子 ①10/22 ②20人

**24,25 (財)埼玉県生態系保護協会 川口支部、かわぐちっ子荒川クラブ**

河原町原っぱ(川口市)／西尾三枝子  
〈24〉①4/23 ③30人 ②25 ①10/22 ②25人

**26 (株)ファミリーマート**

笹目橋下流(板橋区)／船山紀幸 ①10/22 ②20人

**46,52 荒川区教育委員会社会体育課**

〈46〉扇大橋少年運動場、〈52〉西新井橋野球場(足立区)／白石政昭 ①11/6 ②600人

**53 (株)日立ビルシステム**

千住新橋上流(足立区)／高橋円 ①10/22 ②120人

**62 東京白鷗・城北・西新井・足立中央ライオンズクラブ**

千住新橋緑地(足立区)／関谷芳久 ①10/23 ②20人

**65,67 荒川を考える葛飾区民会議・葛飾区**

〈65〉堀切橋下流(葛飾区)、〈67〉四ツ木橋下流(葛飾区)  
①10/15 ②280人

**71 (株)藤商事**

木根川下流(葛飾区)／山下潤 ①11/19 ②60人

**82 シティグループ**

京成押上線周辺(墨田区)／藤谷浩臣 ①10/22 ③36人

**86 松山油脂(株)**

木根川橋周辺(墨田区)／杉崎広信 ①10/15 ②50人

**107 (株)キャプティグループ**

①都営新宿線下流(江戸川区)／坂本寿男 ①11/19 ②40人

●企業インタビュー

住友生命保険相互会社

企業の社会貢献活動をサポート

企業の参加が拡大するなか、今秋、住友生命保険相互会社様が荒川クリーンエイドに参加されました。同社は従前より優れた社会貢献活動を継続されてきた先進的なCSR企業です。

- 前列左から  
人事部人事室 石井 朋江 様  
人事部人事室 本吉 静佳 様  
調査広報部CSR推進室 杉田 有希 様
- 後列左から  
人事部人事室 稲葉 悠太 様  
調査広報部CSR推進室 柳田 将 様  
調査広報部CSR推進室 吉川 英輝 様



■ 清掃活動を行う参加者への感想はどうでしょうか？

最初はゴミの多さに圧倒されていたようですが、ゴミを拾いはじめるとスイッチが入ったようで、脇目も振らずに視界に入るゴミを残らず回収していました。今回の清掃活動は、所属の異なる職員で結成した混成チームで行ったのですが、日頃面識のない職員同士が声を掛け合い、協力しながら清掃活動に取り組む姿をみて、とても嬉しくなりました。



■ 当会スタッフのサポート全般に関するご意見、ご印象をお聞かせください。

1人で80名近くの参加者を指導していただきましたが、その統率力、指導力に感服しています。誰一人として怪我することもなく、清掃活動に夢中になることができたのは、経験豊富で、魅力的な貴会のスタッフの皆さま

までご指導の賜物だと考えております。また、回収したアンケートに目を通すと、スタッフの皆さまに話をいただいたことが一人ひとりに伝わっていることが感じられました。

■ 当会との協働により得たことや今後期待される点はのでしょうか？

あらためてゴミ問題について考えさせられました。本活動は、河川敷に限定したのですが、社会貢献活動の「地球環境」を重点分野の一つとして掲げる企業としては、より幅広い視野で環境保全活動に取り組んでいく必要があるのではないかと考えました。本活動を全国で活

動を行っている職員に対して発信していくことにより、想いを共有できればと考えています。個人的には、もう一歩踏み込んで、ゴミ問題に限らず、社会的な問題に目を向けてほしいと思っています。

●企業インタビュー

みずほ証券株式会社

企業の社会貢献活動をサポート

12月4日（日）に、西新井橋上流（足立区）の河川敷で、みずほ証券株式会社様が荒川クリーンエイドを実施されました。今年初めての実施でしたが、これまでも社員参加型の社会貢献活動に積極的に取り組まれている企業として、担当者様を中心に、社内コミュニケーションを図り、有意義な活動を実施されました。

みずほ証券株式会社 コーポレート・コミュニケーション部  
市原しのぶ様（左）、櫻本 佑喜様（右）



■ NPOと協働した活動はいかがですか？

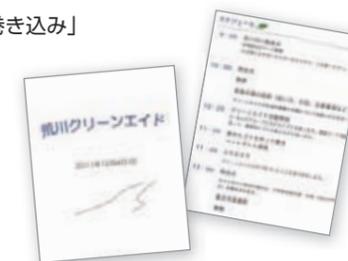
さまざまな地域貢献・社会貢献活動を行ううえでは、当社単独で行うことは難しく、専門知識を有しマネジメント能力に長けたNPOとの協働は重要な取り組みと考えております。その中で、荒川クリーンエイド・フォーラム

は、企業が主体的に行える点、また気軽に取り組み達成感を得やすい点に魅力を感じました。また、当日サポートも行っていただけるため、安心して取り組みました。

■ 参加者との事前コミュニケーションをどのように工夫されていますか？

社員参加型の活動の際には、当日だけでは活動の趣旨などを含めた詳しい説明が困難なため、初めて参加する社員に事前にわかることを連絡し、安心してイベントに参加できるための「しおり」を作成しています。他にも、ポスターを社内に掲示して参加を呼びかけました。また、近隣の支店については、支店長に連絡を取る等に

より、支店の「巻き込み」を心がけました。



■ 本プログラムを通じて、社員の皆様にどのような効果(影響・成果)があったと感じられますか？

予想以上のゴミの多さに驚いていましたが、生活用品がゴミになっている現状、ゴミが自然を脅かすことを知り、参加者の環境保全活動への意識が高まりました。環境問題について身近に感じられる貴重な機会だったと思います。地元への貢献、という色彩は荒川という場所だからこそ出せるものだったのではないかと思います。



## 「利用」と「保全」、自然地を巡る二つの考え方

### ■ 生物多様性の保全 本格始動

荒川下流には、多くの自然地が存在します。それらは、緑のネットワークを形成し、多様な生物の棲みかとなる点で、重要な役割を果たしています。この自然地を守るなかで、荒川に即した生物多様性の保全を考え、当該事業を本格始動いたしました。



2011年に完成した生物多様性の保全事業ページ バナー

### ■ 利用と保全という考え方と当会のプロジェクト

荒川下流の自然地には次の二つの定義があります。これらの定義に即して、私たちは、地域住民を呼び込み、人々の活動をひとつの生態系として捉える「里川創造プロジェクト」（32p参照）、人々の関与をある程度制限しながらも、想定される指標生物を保全、復活する「絶滅危惧種の復活プロジェクト」（36p参照）を立ち上げました。

#### 荒川下流における二つの自然地の区分

自然利用地	自然保全地
市民が自然に親しむ場として開放した自然地の区域と位置づけます。水辺の楽校、環境学習、自然観察等に利用できる環境の創出・維持を目指します。自然保全地は次世代に引き継ぐ環境と位置づけたのに対し、自然利用地は、水辺の楽校、環境学習、自然観察等を通じた教育の場となり、次世代を育てる環境となります。	荒川を川らしい川として構成する環境要素とするほか、荒川下流域の持つべき自然環境を再生・保全し、次世代に良好な河川環境を引き継ぐために不可欠な区域と考えています。ここでいう良好な河川環境とは、多様な生物の生息・生育環境となっていること、より広域的な視点では荒川周辺地域を含めた生態系が維持されているような環境をいいます。

出典：荒川下流河川事務所 荒川将来像計画2010推進計画



### 二つの考え方に必要なこと

荒川クリーンエイド・フォーラム理事 石本 誠

絶滅危惧種の復活には、市民と行政の協働が不可欠です。野生生物の生息・生育を調査し、指標生物を決めたうえで、目標を設定することが重要です。荒川下流には、かつてサクラソウをはじめとする象徴的な植生がありました。今や絶滅が危惧されているものです。埼玉県戸田ヶ原自然再生地では、サクラソウを取り戻そうと行政や市民が連携し、彩湖道満グリーンパークにて保護、生息域の拡大に向けた活動を展開しています。絶滅に向かう野生生物が生息、生育している自然をその仕組みごと守り、育てることが有効です。

里川の創造には、広範な地域住民の関与が必要となります。都市河川の地域住民は、自然には無関心である傾向があります。具体的な戦略を立案し、広報を行い、現場で楽しみながら里川の自然を知ってもらい、このプロセスを経て、次の工夫をすることが、持続可能な里川づくりに重要だと考えています。外来植物を駆除しながら、草木染めをするという楽しみ方があったり、昆虫を観察するといった楽しみ方もあります。里川本来の自然を通して、自然の様々な魅力や不思議さに出会い、感性を育む場になります。

## 荒川から広がる都市の自然 新しい公共を多様な主体と創造する

「荒川下流の自然は、都会のなかでは豊かなほうですが、以前（1960年前後）に比べると随分減っています。それは川に対して人間があまりにも手を加え過ぎたからです。もう一度、昔のような生き物の賑わいを取り戻せないでしょうか。荒川下流域は、住宅や工場、会社など、人命と財産がいっぱい集まっている人口密集地帯です。自然を取り戻すといっても洪水に襲われては困ります。今ある空間を使って自然を呼び戻せませんか。」

— 当会前代表理事 野村圭佑（故人） —

この問いかけに応えるべく、2011年、私たちは2つのプロジェクトを本格始動しました。

## 新しい公共を目指す「里川創造プロジェクト」

### ■ プロジェクトの構想

近年、河川環境の保全を巡って、里山にちなんだ「里川」という言葉が使用されるようになってきました。里山も里川も、人間の生業が生態系の一部に組み込まれた点では、考え方は同じといえます。

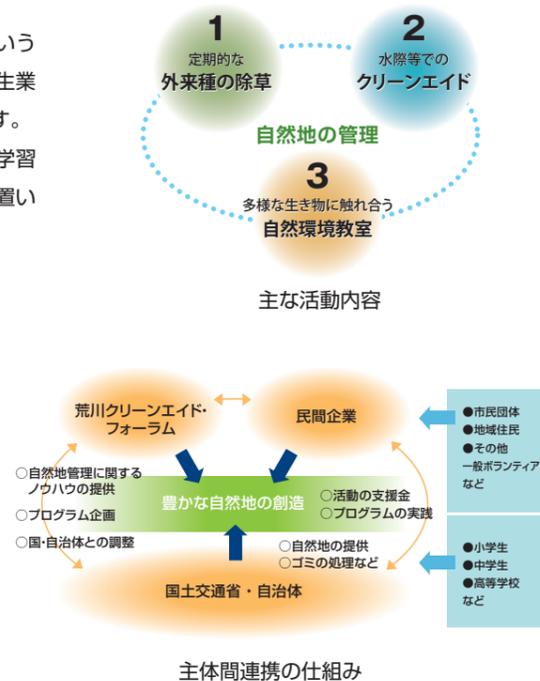
この考え方のもとに、川においても、地域住民等が、自然の学習や草刈などを行うことで、川に触れ利用できる考え方に重きを置いた自然環境の創造を目指し、本プロジェクトを始動しています。

#### ○主体間の連携

本事業は豊かな自然地の創造を目指し、下記のスキームにより当該活動を運営していくことを検討しました。地域や外部のリソースをうまく組み合わせ、持続可能な仕組みづくりを行うことも本プロジェクトの醍醐味の一つです。

#### ○小松川自然地にて連続プログラムを展開

私たちは、里川の創造を具現化すべく、東京都江戸川区に位置する小松川自然地を第一プロジェクトサイトとして活動を展開しています。2011年は以下の活動を展開しました。



### 小松川自然地の紹介

#### 小松川自然地の変遷と市民活動

この活動は荒川下流河川事務所と流域の市民団体等や学校、民間企業などが協働して実施しました。

外来種の除草やヨシ刈り、自然環境教室などの市民活動を通して多くの人々に荒川の自然環境の現状を理解してもらうとともに、荒川に関心をもってもらうことを目的としています。

アクセス

小松川自然地は都営新宿線「東大島駅」より徒歩数分の場所に位置し、都内からのアクセスも良く、小松川干本桜などの観光名所も隣接し、多くの人々に親しまれています。

ヨシ原や干潟を再生するため、既設のコンクリート護岸を取り除き、水際を緩やかな傾斜となるよう整備しました。また、水際の前面に波消し対策（木工沈床）を置いて、ヨシ原を波から守る水辺を作りました。

整備前  
整備直後（平成16年）  
整備後（平成20年）

平成12年（2000）～平成16年（2004）にかけて、国土交通省荒川下流河川事務所が自然地の再生工事を行いました。

木工沈床を設置した後は、ヨシやイセウキヤガラなどの植物が広がり、様々な生き物が戻り、親しみやすく、学び、遊べる要素で満ち溢れる水辺に生まれ変わりました。

木工沈床でヨシ原を守ります。水際から少し離れたところに石を詰めた木のわくを設置し、波でヨシ原が削られるのを防ぎます。

荒川下流河川事務所 平成22年河川環境保全啓発活動業務 作成パネルより

### ■ 2011年の活動：企業の実施が中心

外来種の除草や自然環境教室を中心に6つの団体による計7回の活動を実施しました。活動資金を国に依存することなく、寄付金や自らの自主事業により活動を遂行しました。

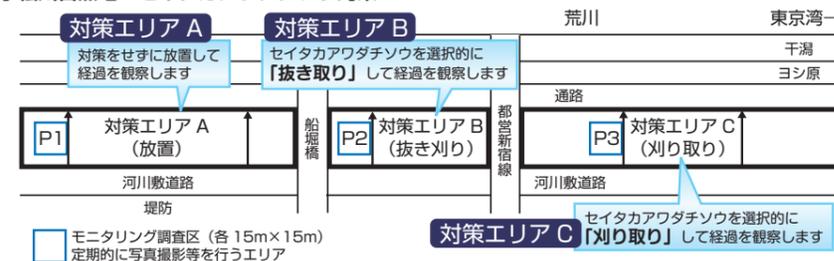
#### 2011年の活動の一覧

実施団体/日付/参加人数	活動の様子	実施団体/日付/参加人数	活動の様子
島村運輸倉庫株式会社 ●5月1日（日） <b>142人</b> ●11月12日（土） <b>111人</b>		「24時間テレビ」チャリティー委員会 ●5月29日（日） <b>127人</b>	
日本クラフトフーズ株式会社 ●10月4日（火） <b>36人</b>		江戸川・生活者ネットワーク ●10月23日（日） <b>30人</b>	
ジョンソンコントロールズ株式会社 ●11月3日（木） <b>21人</b>		住友生命保険相互会社 ●11月5日（土） <b>435人</b>	

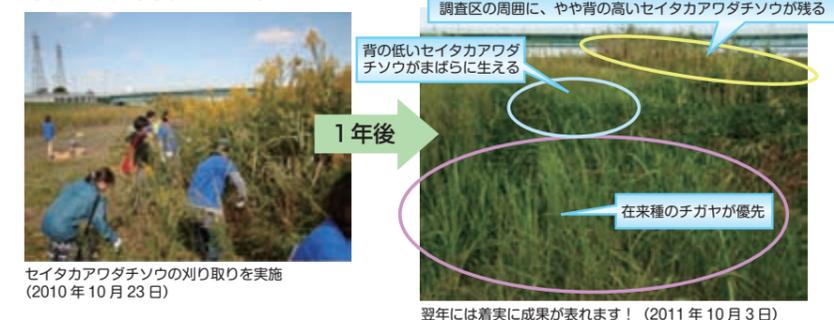
### ■ 外来種のモニタリングを実施

2011年度より、同自然地の本格的な植生や現存する昆虫などのモニタリング活動を実施しています。今後数年スパンで経過を観測するとともに、希少種を戻していくといった長期目標の設定を模索する予定です。

#### 小松川自然地・セイタカアワダチソウ対策MAP



#### 対策の成果（対策エリアB）



●市民団体インタビュー

江戸川・生活者ネットワーク 新しい公共の担い手こそ市民

小松川自然地の里川創造プロジェクトには、地元の参加が不可欠です。自然地を適正に管理し、里川の創造を行うには、長く、定期的な活動が不可欠です。過去17年に亘り、ゴミ拾いだけでなく、生き物調査や観察会などを毎年実施されている江戸川・生活者ネットワークさんに、都市の自然と向かい合うNPOや市民の役割についてお話を伺いました。

■ 毎年自然が豊かになっていくのを実感

稲宮さん／ 江戸川・生活者ネットワークが、小松川自然地で活動を始めたのは、1995年です。コンクリート護岸から自然と調和する護岸のあり方、整備への提言など、流域市民として河川事業への働きかけも行ってきました。毎年、様々な生物種が戻ってきたのを実感しています。



右) 稲宮須美 様  
左) 堀場理砂子 様



■ 生物多様性の保全と災害

稲宮さん／ 都会の中の自然とはやはり川だと思います。水の豊かさだけでなく、ヒートアイランドの東京にあって、風の流れを生みだし、癒しの空間でもあります。こうした川は存在は本当に大切です。

一方で、川には危険な印象が付きまといまいます。行政も今

は、災害対策に力を入れています。都市を洪水から守るといった政策と、生物多様性や、ありのままの自然や景観を保全するといった政策をいかに融合させていくか、地域の住民の意見がもっと反映されるべきだと思います。

■ NPOが市民を啓発し新しい公共を担うべき

堀場さん／ 地域に根差したNPOである荒川クリーンエイド・フォーラムこそ、市民とともに、貴重な自然、川を取り戻していくためのパイプ役ですね。小松川自然地の隣接する地域は、東京都の市街地再開発地域で、新住民の多いところ。こうした人たちと一緒に、人工河川の荒川に里川を創造していく取り組みをいかに展開していくか。この新たな挑戦に大いに期待するところです。



■ 子どもたちから大人を巻き込む構図

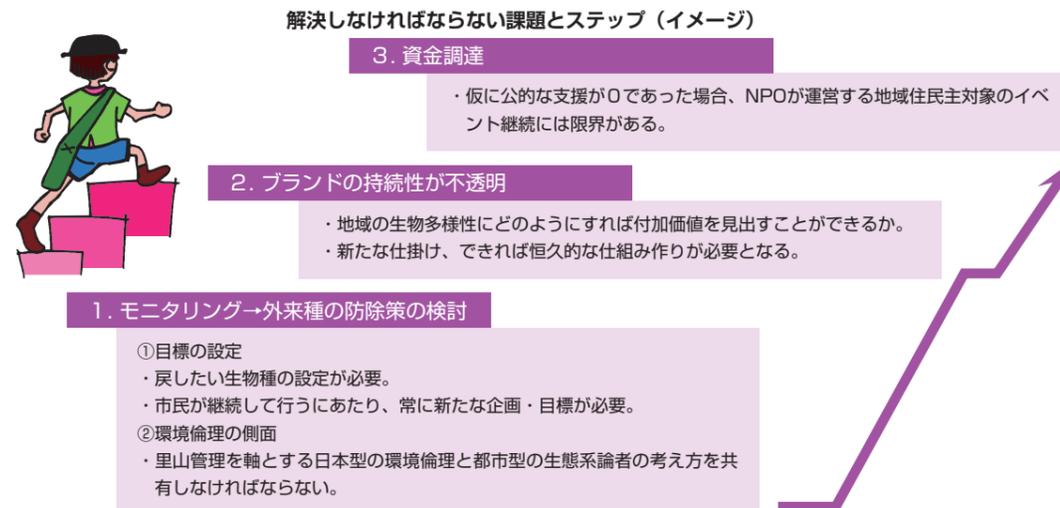
堀場さん／ この地域は新しいまちですから、一般の人々から幅広い参加を促すのは容易ではないと思っています。昨年と今年、子どもたちを連れて、里川創造プロジェクトの活動に参加しました。地域を巻き込むには、まずは子どもからですね。子どもが参加する際には、大人もついてくる人が多いです。何より「参加した子どもたちから大人に教える」ことができます。私たちが主催する活動は、毎年、地域のガールスカウトと一緒にしています。これからは、地元小学校の保護者として、学校との連携をもっと図っていきたいです。

■ 江戸川・生活者ネットワークができること

堀場さん／ 来年には、小松川自然地を運営する協議会が立ち上がるということで、より一層、地域を巻き込んだ体制づくりが求められます。江戸川・生活者ネットワークも協議会メンバー団体として、小松川自然地の活動に、より多くの区民が参加できるよう協力していきたいと思っています。

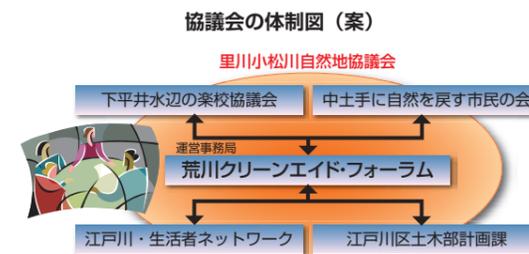
■ 今後の展望

NPO/市民団体が自己財源を主体として、継続的に地域や他セクターを巻き込み、安定した活動を展開していくには多くの課題をクリアしなければなりません。



○協議会の設置

2011年は、これらの課題を解決するため、荒川クリーンエイド・フォーラム単体ではなく、江戸川区及び地元市民団体を巻き込んだ協議会を立ち上げる準備段階に入りました。地元自治体の持つ広報力や地域の団体が持つノウハウを駆使して、上記の課題を解決し、里川の創造を全国に先駆けて実践していく予定です。



東京らしい里川の在り方

荒川クリーンエイド・フォーラム理事/東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 鬼頭 秀一

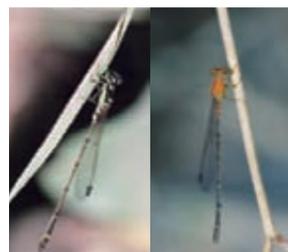
人工の都市河川荒川の最下流に近い小松川自然地は、東京らしい生物多様性を知る最良の可能性を秘めていることは間違いない。還元すれば、東京都生物多様性戦略を考えるうえでのモデル地区となるであろうことである。地元中小企業や国内大手企業、外資系企業に至るまで、多くの企業に利用され、かつリピート参加を実現している点は、まさにこの活動の魅力を物語っている。NPOが行政の予算に依存することなく、ある種のコミュニティビジネスを自然再生の分野でNPO主導で展開する事例は非常に稀であり、新しい公共が求める地域の自治の可能性を大

いに推進するものであると期待が持てる。一方で、当年度は、自主財源を糧に活動に踏み切るといふ大きな岐路に立たされながら、地元自治会、学校など地域の主体を巻き込むことに苦戦した。東京らしい生物多様性を追求するには、国と役割分担を明確にし、地域の人的リソースと自然を結び付け、活動を運営するという責任を荒川クリーンエイド・フォーラムが担うべきことは否めない。来年度は、地元の関与をどう実現するかが極めて重要となる。地域の歴史、居住者の属性など必要な情報を収集し、地域に開かれた里川の創造を推進したい。

## 市民・民間の協働「絶滅危惧種の復活プロジェクト」

### ■ プロジェクトの背景

荒川流域には、絶滅が危惧される生物が棲める環境を維持していくという課題があります。ヒヌマイトトンボはその象徴的な種です。荒川では、従前より国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所（以下国交省）と墨田区が協働で同種

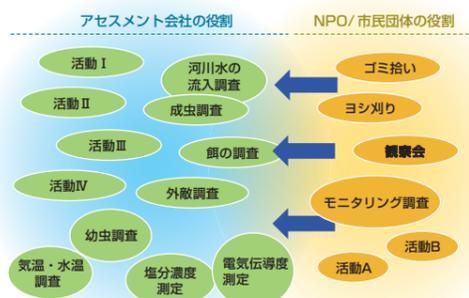


ヒヌマイトトンボとは：  
1971年に茨城県濁沼（ひぬま）で確認。淡水と海水が混じり合う河口付近の葦の群生地できれいに生きられません。護岸工事などにより、生息地が大幅に減っているため、環境省は絶滅のおそれ最も高い生物種として指定しています。環境省レッドリスト区分：絶滅危惧Ⅰ類。体長約30mm。

の保全活動を行ってきましたが、国の予算の削減を受けて、現在、その保全活動が滞りつつあります。

国や自治体への完全依存体制ではなく、市民が実施する保全活動と、民間企業の生物多様性関連の活動とを連携させることを念頭に置き、2011年より当該プロジェクトを本格始動しました。

#### アセスメント会社の役割をNPOが担う



### ■ プロジェクトの構想

第一に、厳しい環境下で、絶滅が危惧されている同種を保全するにあたり、専門的な知識や資材を有する環境アセスメント会社が実施していた活動をどれだけ当会に権限委譲できるかが焦点となります。

本活動に賛同し、参画いただける団体とともに、具体的な保全計画をブラッシュアップし数年後には、里川創造プロジェクトと同様に、新しい公共やアダプト制度の概念を具現化することを目指しています。



### ■ 年間の活動計画

ゴミ拾いやヨシ刈りを通じて、様々な角度から保全活動を実施する必要があります。夏場は数少ない貴重な成虫が生息する時期であるため、ある程度人の立ち入りを制限します。秋から冬、来春にかけて、ヨシ刈りやゴミ拾いを実施し、賛同団体と共に協働するプログラムを展開すべく、大凡の年間計画を設定しました。

活動種別	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
I. ゴミ拾い		←-----→												
II. ホットスポットのヨシ刈り								数回に分けて全面刈り取り						
III. 自然地の周りの外菜畑の除草			2回実施 ※5月中旬、7月上旬がよい				1回実施		1回実施 ※11月～3月の間で1回					
IV. 観察会			必要に応じて											
V. 成虫モニタリング		←-----→ 隔週1回												

### ■ 5匹の成体を発見

2011年、荒川クリーンエイド・フォーラムのスタッフを中心に調査したところ、計5匹の成虫を発見しました。また、8月4日には、テレビ東京「トコトンハテナ」の取材班と連携し、雄の成熟個体の撮影に成功しました。

調査日時	ヒヌマイトトンボ			
	雄♂		雌♀	
	未成熟	成熟	未成熟	成熟
6月14日(火)9:40~12:00	0	0	0	0
7月2日(土)9:30~11:40	0	0	1	1
7月7日(木)17:00~18:20	0	0	0	0
7月13日(水)9:30~12:00	0	0	1	0
7月25日(木)9:30~11:40	0	0	0	0
8月4日(木)9:20~13:30	0	1	0	1
8月15日(月)11:30~13:00	0	0	0	0
合計	0	1	2	2



自然史教育談話会資料より

※ 未成熟とは、羽化後まもない個体を意味し、雄雌特有の色がはっきりしない状況のものを指します。



7月13日撮影  
雌の未成熟個体



8月4日撮影  
撮影の様子



7月13日撮影  
雌の未成熟個体



8月4日撮影  
雄の成熟個体

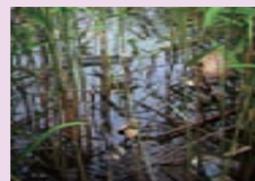
2011年に発見された成虫

## ■ 現在の生息地の問題点

ヒヌマイトトンボが生息できる環境とは、密生したヨシに覆われ、一定の塩分濃度を持つ河川水が流入し、5~10cm程度、水で浸る条件が良いといわれています。ところが、春先から当該生息地を調査したところ、大きく以下のような問題が判明しました。

### 1 ゴミの堆積

荒川本川よりゴミが流入し、ヨシ原内にゴミが堆積しています。プラスチック製のゴミが水質に与える影響などが懸念されます。



### 2 浸水域の枯渇

夏が続いた7月中-下旬において、水が枯渇した。幼虫にとっては、好ましくない状況である。また、砂やヨシの管が多く、本来同種が好む腐葉土が少ない。陸地化の原因となる。



### 3 多数の外敵

ヨシ原には、主にクロベンケイガニをはじめとしたカニ、ハチやカマキリ、クモなどの外敵がいます。捕食者としてヒヌマイトトンボを捕えます。



### 4 ヨシの倒伏、陸地化

ヨシの倒伏により、水辺の陸地化が懸念されます。ヨシの管は、自然条件下ではなかなか分解されません。また、陸地化した部分にはゴミの堆積が目立ちます。



## ■ 水の流入・流出状況が不透明

上記の問題のなかで、特に、浸水域が枯渇する問題は幼虫の生息に大きな影響を与えるため、極めて重大です。

そこで、今年は、大潮の時期に併せて、グランドレベル（GL）を測定しました。

流入した河川水が抜ける場所を明確にし、対策を講じることが狙いです。その結果、隣接地①では、河川側に水の流出を防ぐ盛土がないことがわかり、また、隣接地②でも、GLが低く、かなりの量の水が抜けることが明らかとなりました。



現存するヒヌマイトトンボの生息地（ヨシ原内（略図））



## ■ 実践的な保全活動を実施

11月26日（土）、長年荒川クリーンエイドに参加してきた企業の方々、足立区及び江戸川区の市民団体、国土交通省荒川下流河川事務所と連携し、以下の諸活動を実施しました。

### 生息地

#### ① 堆積ゴミの除去



#### ② 倒伏したヨシの取り除き



### 隣接地

#### ① 隣接地の整備を目的としたヨシ刈り



#### ② 河川水の流出をふせぐ土嚢積

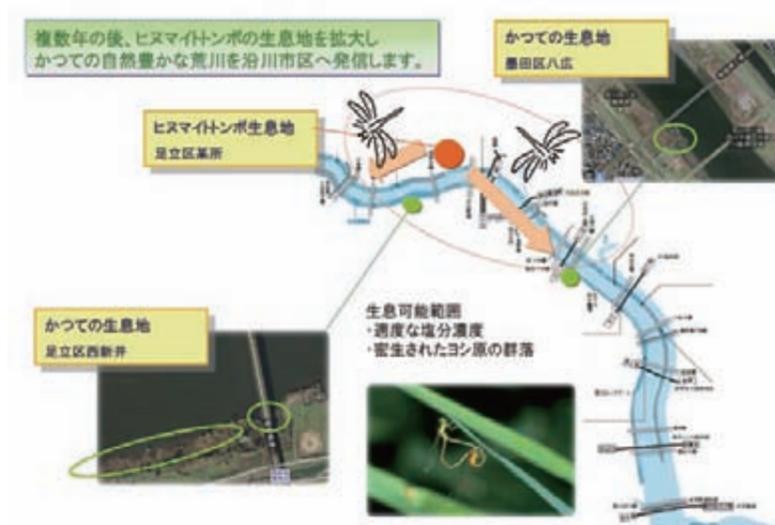


## ■ 生息地の拡大を目指す

現在、荒川流域における生息場所は足立区にある一拠点のみと考えられているため、一刻も早く、生息地を拡大しないと近親交配や既存生息条件の悪化などにより、直ちに絶滅の危険性があることも考えられます。

そこで荒川クリーンエイド・フォーラムでは、現在の生息地に加え、かつての生息地の整備も視野に入れ、活動を推進しています。

### ヒヌマイトトンボの復活に向けたエコロジカル構想



## 企業の新入社員研修に荒川クリーンエイドを活用

### ■ 新入社員研修に社会貢献活動を活用

近年、社会貢献活動を人事部で所管している研修の一環として実施している企業が増えています。特に、清掃活動を切り口とした新入社員研修は、気軽でかつ容易に実施できることから、各企業の研修計画の中に普及しつつあります。

### ○ 社会貢献活動を活用した研修の実例



### ■ 2011年は飛躍的なプログラム開発を実施

当年は、PanasonicNPOサポートファンドからの助成を受け、下の4つの目的をこれまで以上に具現化すべく、プログラムの開発に努め、実践を行ってきました。

### ○ 荒川クリーンエイドを活用した体験型新入社員研修の4つの目的

#### ① チームワーク力の育成

グループでの協力作業を通じて、組織内あるいは組織を越えたコミュニケーション力やチームワーク力を養います。



#### ③ 環境意識の向上

ゴミ散乱状況を目にし、実際に拾う体験をすることで、大量廃棄社会を実感し、循環型社会への意識を高め、行動へ導きます。



#### ② 問題解決力の育成

荒川クリーンエイドの実習から課題を発見し、課題解決・提案のプロセスを学ぶことを通して、企業活動に活かす力を養います。



#### ④ 社会性の向上

社会課題が表面化する河川敷で、社会貢献活動を身をもって体験し、社会における企業の果たす役割を考えます。



## 次世代育成のために 知って 学んで 楽しんで

様々なセクター・世代の人々が、荒川下流域においてゴミ問題や生物多様性、水辺の安全等に関する学びを得られるよう、河川を活用した環境教育、“人づくり”に多面的に取り組んでいます。従前は、次世代を担う子どもへの環境教育を主目的に実施してきましたが、2008年を契機に企業の新入社員をはじめとした若者への環境教育にも力を注いで来ました。2011年は、子どもへの環境教育と若者への研修に意気込みました。

社会貢献活動を推進するうえでの基礎知識や循環型社会・3R、荒川クリーンエイドを活用した企業事例について様々な資料を提供しました。また、清掃活動当日が雨天の場合を想定し、室内プログラムを充実させ、準備段階からご担当者様と一緒に様々な企画を準備してきました。



研修資料のサンプル



●企業インタビュー

株式会社ガリバーインターナショナル 社員個人ができることを考えるきっかけが持てた

今春は、3月11日（金）に発生した東日本大震災の影響もあり、予定していた研修の幾つかは中止になりました。このような状況下で、私たちと一緒に荒川クリーンエイドを活用した研修を実施した企業をご紹介します。中古車の買取・販売業を行う株式会社ガリバーインターナショナルさんです。地震の影響を顧みず、「3月11日発災後は、逆にこのような状況だからこそ、周囲が不安に思っている状況だからこそ、何も懸念がなかったかのように（当初の研修計画を）進めさせたかったのです」と、HRチーム【人事部門】の荒木様は言います。

ターナショナルさんです。地震の影響を顧みず、「3月11日発災後は、逆にこのような状況だからこそ、周囲が不安に思っている状況だからこそ、何も懸念がなかったかのように（当初の研修計画を）進めさせたかったのです」と、HRチーム【人事部門】の荒木様は言います。



HR チーム 荒木 博邦 様

■ワークショップのご印象はいかがですか？

ゴミを拾うだけであると、事が起こってから行動するという対症療法的なものでしかありません。

対症療法でなく問題の根本を解決するという視点で考えなくてはなりません。当日のワークショップでは社会全般におけるゴミ問題の根本的な解決策について社員個人ができることを考えるきっかけが持てました。活動だけでなくワークショップの両方があって良い相乗効果を生み出したと思います。

また、何のためにゴミ拾いをするかといった荒川クリーンエイドの目的を開会式ではなく、ワークショップ後の講評にてはじめて伝えていただいたシナリオは非常に良かったと思います。社員がよく理解できたと実感しました。



■本研修を通じて、社員の皆様にどのような効果(影響・成果)があったと感じられますか？

会社としてボランティアに関する情報は常に発信しておりますが、自主的にはなかなか実行に移せないのが実情です。

今回荒川クリーンエイドを経験した新入社員はこうした活動の意義を理解できたと思いますので、今後会社で推奨するボランティアに率先して参加するでしょう。

●企業インタビュー

株式会社新生銀行 室内プログラムによるワークショップ型の研修

2011年4月20日に実施いただいた新生銀行さんには、事前研修、荒川クリーンエイドの実践、そして事後ワークショップをご支援させていただきました。ご担当された中岡さん、白井さんのお二人にお話を伺いました。



された中岡さん、白井さんのお二人にお話を伺いました。



左) 人事部 中岡 佑里子 様  
右) IR・広報部 白井 裕美子 様

■ワークショップのご印象はいかがでしたか？

中岡さん／ グループで課題に沿って自分たちの考えをまとめ発表するワークショップで、午前中のクリーンエイド“体験”に加えて、“考える”作業があったのがよかったと思います。クリーンエイドだけでなく、ワークショップにおいてもチームワークの醸成につながりました。

白井さん／ 社員同士で楽しく話し合える時間だったと思います。研修中に交流を深め、仲良くなって欲しいという気持ちもありましたので、良い機会だったと思います。

中岡さん／ 他の研修は座学が多く、グループで話をま

とめたり、プレゼンテーションをするのは皆好きですから、いきいきと活動していました。



■社員の皆様にどのような効果(影響・成果)があったと思われますか？

白井さん／ 今年は、東日本大震災で被災された地域や人々を支援するため、ボランティア活動を行いました。本研修に参加した新入社員からも参加がありました。新入社員研修の時に社会貢献の大切さや楽しさを知ること

次の活動への参加にもつながったと思います。

中岡さん／ 環境問題に対する関心が高まったと思います。自分にできることを考え、ゴミに対する意識も変わったと思います。

■私たちとの協働を通して得たことをどのように実社会に活かして行ってほしいと思いますか？

中岡さん／ それぞれの地域で地域貢献をしてもらいたいです。IR・広報部が企画するボランティアに参加すること、そして、日常生活から変えられることを実践してもらいたいと思います。

白井さん／ 色々なきっかけを通して、この会社に入って

良かったと思ってもらいたい。会社の一員であることに誇りを持ち、良い仲間ができることで、今後それぞれの業務に戻った時も、切磋琢磨しながらお互いを高め合っていると。このようなことが最終的には業績にもつながり、社会への貢献にもつながると思っています。

## 「体験」を「学び」につなげる学校教育支援

小中学校の総合的な学習の時間等における学習の企画運営支援、子ども向け教材の開発等を通して、荒川をフィールドとした学習の普及と質の向上を目指しています。

### 2011年の支援の概要

延べ2,341人の小中学生を対象に、合計29回、多様なプログラムで学習支援を行いました。荒川クリーンエイドや水質調査等の「体験」を「学び」につなげるプログラムの企画に努めました。

学校教育支援の概要(2011年1~12月)

	学校所在地	校数	回数	児童・生徒数(延べ)	主なプログラム
小学校	秩父市、豊島区、江戸川区	6	28	1,897	荒川クリーンエイドとゴミの学習、水辺・草地の生物の観察・調べ学習、水質調査と水質の学習、自然に親しむアクティビティ、自然遊び(ヨシ笛、ヨシズ編みなど)
中学校	足立区	1	1	444	荒川クリーンエイド
計		7	29	2,341	

### 2011年の代表的な支援プログラム

2011年に支援したプログラムのうち、代表的な2つのプログラムをご紹介します。

#### ○ 投網と魚の調べ学習

伝統漁法である投網を実演し、昔は荒川でも漁業が行われていたことも伝えます。グループごとに獲れた魚やエビなどを観察した後、気づいたことを共有、最後に講師による解説を行いました。



投網の実演



魚やエビの観察



発表・ふりかえり



#### 人が守り育てている荒川を知ってほしい

江戸川区立平井東小学校では、荒川学習を始めて8年目となりますが、2010年度からは1~6年を通じた学習に取り組んでいます。荒川学習ご担当の沖山真弓先生にお話を伺いました。

interview

**Q** 先生は、20年近く荒川学習に関わられていますが、荒川学習の魅力は何だと思われますか？

荒川は、洪水を防ごうとして皆が力を合わせてできた川、色々な人の思いが込められているんですね。今も、人が関わって守り育てている。それを知ること荒川が大切に思えてくる。子ども時代にそう思えることが大事だと思うんです。

**Q** 荒川学習をより豊かにする秘訣は何でしょうか。

継続することが大事です。学習プログラムや安全面の情報が増えてくると、今年の学習が次の学年に活かされていきます。また、人、地域、自然のつながりを通して、子供たちの環境学習への意識が高まっていくことが大切です。子供たちを通して、大人の環境への意識も変わっていきます。もっともっと荒川環境活動が広がっていくとよいと思っています。

#### ○ ゴミの学習プログラム『ゴミが生き物たちに与える影響を考えるワークショップ』

「ゴミがあると、生き物たちがかわいそう」という、ゴミ拾い体験での「気づき」を元に、ゴミ問題について深く考えます。ゴミが生物に与える主要なダメージである、絡みつきの誤飲、ゴミがヨシ原や干潟を覆うという3つの

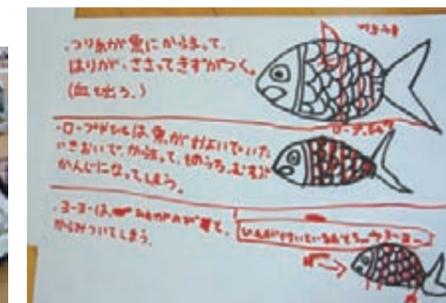
テーマで、生き物たちがどのようにダメージを受けるか、グループで考え発表しました。最後に、ゴミのない荒川にするにはどうしたらよいか、皆で話し合いました。



荒川クリーンエイドで数えるゴミ拾い



グループごとに課題に取り組む



まとめ

### 教材の開発

#### 『荒川から地球が見えてくる 川のゴミを調べてみよう!』

荒川クリーンエイドに参加する小中学生に川ゴミについて理解を深めてもらうため、ゴミの学習教材を作成しました。

※2011年度JT青少年育成に関するNPO助成により作成しました。



**[主な内容]**どんなゴミがあるのかな？  
／ゴミが生き物たちを苦しめている！  
ゴミはどこから来てどこへ行く？



#### 「荒川から地球が見えてくる」～知識から腑に落ちる学びへ

荒川クリーンエイド・フォーラム理事 星野 由実

荒川クリーンエイドの後などに、「では、ゴミのない荒川にするためにはどうしたらいいかな？」と子どもたちに尋ねると、「ゴミを捨てさせないよう呼びかける」「3R」「マイバッグを持つ」など、大人が期待する言葉が次々と返ってきます。いまや各教科書に環境が取り入れられ、言葉や概念として、子どもたちは環境問題とその解決方法について知識を持っています。では、ゴミ問題の深刻さや解決の必要性が、本当に彼らの腑に落ちているのでしょうか。その助けになるの

が、荒川クリーンエイド等の実体験。まずは、実体験の中で問題に気づくこと、そして、気づきから本当に腑に落ちるに至る、更には行動に移すプロセスを、大人がいかに支援できるかにかかっているのではと思います。学校、家庭、私共NPO等が、様々な場面で共に関わる体制が整っていくことを願っています。“Think globally, act locally.”と言われますが、ゴミ問題に限らず、「荒川から地球の環境問題が見えてくる」学びの支援に今後も努めて参りたいと思います。



# 集まれ! 荒川エコキッズ2011

荒川の自然地で子ども・親子向けイベントを開催し、子どもたちに自然体験・環境学習の機会を提供しています。

## ■ 集まれ! 荒川エコキッズ2011 生物多様性プロジェクト

生物多様性をテーマに、親子を対象としたイベントを8回開催しました。地元の団体と連携しながら、河口の干潟から池、草地など様々な自然環境の中で多様なプログラムを展開し、延べ255人の参加をいただきました。8つのイベントの実施概要を写真と共に紹介します。

環境教育の推進

### A 9/17 水辺と原っぱの生き物さがし

(参加者数48人)



水生生物のお話

草地の生物を観察するプログラム、ワンド池では、たも網で魚とり、カニ探し、「四つ手」という仕掛け網の実演も行いました。



ワンド池で魚とり

【開催地/共催団体】  
北区・子どもの水辺/北区水辺の会



### C 6/5 クリーンエイドと干潟遊び

(参加者数41人)

### 7/10 水質調べと水鉄砲づくり

(参加者数33人)

### 9/11 草原の虫さがしと秋の七草さがし

(参加者数25人)

### 10/16 クリーンエイドと魚とり

(参加者数45人)

ゴミや水質調べ、川や草地の生物観察、自然遊びなど、多様なプログラムで水辺の自然と触れ合いました。

干潟池で魚・カニ探し



【開催地/共催団体】下平井水辺の楽校

### D 10/23 川原っぱ生き物調べ

(参加者数18人)

生物の特徴を学ぶ授業、水辺や草地の生物調査、まとめとして、楽しいアクティビティで生態系の仕組みを学びました。

【開催地】小松川自然地



アクティビティ「野生生活は連任せ」

### B 9/18 夏の生物調査と竹鉄砲づくり

(参加者数8人)

植物や昆虫・水生生物の調査、ノコギリなど道具の使い方を教わって竹鉄砲作り、セイタカアワダチソウの弓矢遊びなどを行いました。



【開催地/共催団体】中土手五色池/中土手に自然を戻す市民の会

### E 7/31 なつやすみ水辺の楽校

(参加者数37人)

干潟でたっぷり生き物観察をした後、干潟の生き物マップ作り、砂だんごから干潟の生態系の仕組みを解き明かすワークショップ、カキの水質浄化実験などを行いました。



干潟の生き物観察



水質浄化実験



### 「なつやすみ水辺の楽校」を考える

荒川クリーンエイド・フォーラム 副代表理事 薄井 洋一

荒川クリーンエイドの大きな目的に「自然の回復」があります。しかし、都市生活者にはどこかピンと来ないところがあるかもしれません。そのヒントに「子どもといっしょに遊ぶ」ということがあります。子どもたちと遊ぶ時間や場所は大きく制約されてきました。「子どもが川に近づくと危険」と、いつしか都市の川は敬遠されてきました。それとは全く反対の取り組みが「なつやすみ水辺の楽校」です。

荒川源流の奥秩父の山で子どもたちとハイキングを

したり、中流の川で思いきり水遊びをして魚を捕まえる、川の終点である海の干潟で生物と戯れる、そしてそこで、子どもの頃自然とたくさん遊んだ大人たちがなんだかんだと話をします。それを子どもたちが真剣なまなざしで聞き学んできました。昔から、山から海まで都市を貫いて流れる荒川は、自然の通り道でした。その「通り道」で子どもが思いきり遊べる空間を取り戻すため、今後も「なつやすみ水辺の楽校」に取り組んでいきたいものです。

環境教育の推進

# 水質調査の実施



## 水環境への関心を高める川の水質

### 秋の水質調査COD(化学的酸素要求量)

- COD 0~4.9mg/l
- COD 5~7.9mg/l
- COD 8~ mg/l



### ■ 荒川クリーンエイドとともに川の水を調べる

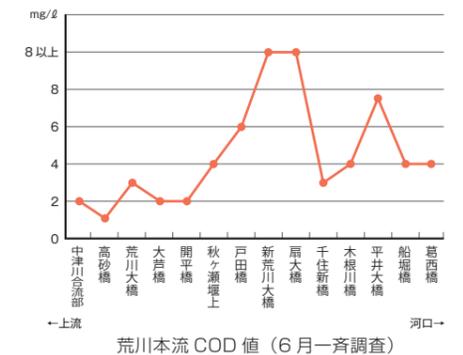
9月~11月に荒川クリーンエイドを行った際に、上記マップ内23地点において水質調査も実施しました。荒川クリーンエイドと同時に調査する中で、2000年頃からCODの値はほぼ横ばいの状況が続いています(※注1)。参加者がゴミだけでなく川の状況を見守り続けることが重要であると考えています。

※注1：高度成長期に非常に汚れていた荒川は、流域下水道の整備や法令による排水への規制、環境意識の高まり等流域全体の様々な努力により、だんだんきれいになってきています。(荒川下流河川事務所パンフレット「荒川下流の水質」より)



### ■ 秩父から河口付近まで(身近な水環境の全国一斉調査)

6月7日(日)を中心に全国の約5,600地点で実施された「身近な水環境の全国一斉調査」(全国水環境マップ実行委員会主催)に参加しました。荒川下流域の41地点で水質調査を実施し、そのデータを取りまとめて提供しました。中上流域のデータと合わせると、中小河川からの合流のある北区・足立区(河口から16~20km)付近で、汚れ具合の指標となるCOD値は高くなっています。また、河口に近づくに従い、潮の干満の影響で海水が混ざるためCODの値は低くなる傾向が見られます。



## 市民モニタリングで、見守り続ける水環境

荒川では、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」、秋のクリーンエイド時の水質調査に取り組んでいます。子どもたちでも簡易にできるバックテストを利用した水質調査、におい、透視度などの測定を通じて、身近な水環境への関心を高めています。ゴミを拾うだけでなく、河川敷、水際、そして川の水を含めた水環境を良くしていくことを目指し、行動しています。

### 流域住民の努力で荒川の水質が良くなっています

荒川クリーンエイド・フォーラム副代表理事 林 美恵子

10月12日(水)、携帯電話に突然立て続けに電話が。埼玉県環境部水環境課とテレビ朝日からでした。あらちゃんが出発する現場に行って取材に協力してもらえたらという趣旨でした。テレビ朝日が用意くださったハイヤーで急遽、荒川秋ヶ瀬取水堰の現場に直行。現場は大勢の市民の見物客に加え、各新聞社、各テレビ局などの多くの報道陣が。焼きそば屋の屋台まで出ているほど。そうした中で、堰のすぐそばの水際で取材、インタビューとなりました。

マイクを前に、あらちゃんが荒川に来てくれたのは、流域住民の努力で荒川の水質がよくなってきたこと、流域の皆さんに川の生き物に対する愛護精神が深まってい

ること、取水堰周辺は東京湾河口から潮が上がる汽水域で魚の種類や量が豊富なことなどが考えられると。さらに、あらちゃんを通して皆さんが荒川への関心を高めてくれるきっかけになればと締めくくりました。このインタビューの一部がその日の「報道ステーション」で放映となりました。

テレビ朝日「報道ステーション」で放映





## 荒川から 地球が 見えてくる

上流の水源涵養林に降り注いだ雨は、流路を流れ、川という生態系を育み、河口へと流れ着きます。地球上の代表的な物質循環、それは、水の循環です。その水の循環に沿って、本来は、肥沃な土壌が河口まで運ばれるのですが、現代では、自然分解しないゴミまで運ばれ、やがて海洋にまで漂流していくようになってしまいました。ゴミ拾いのネットワークを水際の一地点（点）から流域（線）を結び、全国・世界（面）とつながることを目指し、2011年の春、日本の海辺の漂着ゴミの調査団体であるJEANを通して、世界の漂着ゴミの調査団体が手掛ける国際海岸ゴミ調査（International Coastal Cleanup）との関係強化に向けて、大きく動き出しました。



## 源流のエコツアー、中流でのシンポジウム

源流域の実情を知ることが大切と考え、1996年から毎年「荒川源流エコツアー」を企画し、荒川源流域の大滝村との交流を続けてきました。

### ■ 荒川源流エコツアー

従前より元大滝村の千島村長さんをはじめ皆様から山林が荒廃している実情を伺い、下流域の市民に何が出来るかを考えてきました。これを受けて、2011年は、9月に森林ボランティアと原生林探索を含む「荒川源流エコツアー」を企画しました。台風12号の襲来でやむなく中止しましたが、来年度以降も同様の企画を実施していきたいと思っております。今年は最上流で大滝小学校がクリーンエイドを実施してくれました。

### ■ 流域再生シンポジウム

2000年から上中流域の団体と協働して「荒川流域水環境シンポジウム」を開催し、2008年から「荒川流域再生シンポジウム」に受け継がれて毎年実施されています。荒川流域再生シンポジウムは、荒川クリーンエイド・フォーラムも共催団体として参加し、2011年2月13日に「地域と河川生態系再生の道筋を探る」をテーマに「荒川流域再生シンポジウム」を行いました。

### 〈環境フェスタちび2011への参加〉

10月15日秩父市主催の「環境フェスタちび2011」の中で行われた環境フォーラムで、当フォーラム代表理事の佐藤正兵がパネラーとして参加し、秩父市の山林資源を有効活用する流域連携の重要性などについて発言・報告しました。



### 天然のアユなど魚の行き交う流域再生 ～中流での試み～

荒川クリーンエイド・フォーラム理事 荒川流域ネットワーク代表理事  
江戸川大学教授 恵 小百合

荒川流域ネットワークでは、「魚の行き交う川づくり」を目指して、2009年からアユの遡上困難な入間川の菅間の堰などの上流側で標識アユを放流し、もしアユがそこを遡上したと仮定してその上流のどこまで遡上するかを調査する「標識アユの放流遡上調査」を実施し、2011年も入間川と都幾川などで実施しました。その結果を基に遡上の障害になっている堰の改善や魚道の整備な

どを呼びかけてきました。その大きな成果として菅間の堰の改良工事が埼玉県との協力で平成24年度実施されることになりました。荒川中流域で産卵・孵化したアユは荒川を下って東京湾の浅瀬で育ち、春にまた荒川を遡上します。

荒川の上中流から東京湾まで魚の行き交う川にすることが、荒川の生態系をよみがえらせることにつながっています。



## 市民協働の自然創りのあり方を検討

荒川下流部の大規模な自然創りの中で、河川敷から水際まで管理されずに残っていた小松川自然創り（船堀橋右岸周辺約1.1キロ）については、荒川クリーンエイドを実施する傍ら、外来植物の除去など里川創造プロジェクトの中で自然創り管理を行おうとしています。同様に木工沈床を設置した西新井橋上流右岸約1キロメートルについては、2009年からクリーンエイドを繰り返し実施することによってようやく水際のヨシ原の内側に溜まった大量のゴミが除去されています。

これまでほとんど管理されていなかった自然創り（一部の草刈などは業者に発注）について、NPOや自治体、企業などの協力で実施できないかを検討する「荒川下流部自然創り管理・運営検討会議」が荒川下流河川事務所の主催で開催され、当フォーラム代表理事の佐藤が委員として参加しています。墨田区と足立区の2箇所にモデル地区を設定し、学識経験者や地元自治体役員なども参加して協議を進め、墨田地区から工事に掛かっています。

子どもたちが安全に遊び自然環境の学習ができて、大人も共に癒されるような水際の自然創りを、市民、

自治体、企業などが協力して維持管理するような仕組みを作り出そうとしています。下平井水際の楽校や北区・子どもの水辺などがその模範事例として作られています。国の予算が削減されるなかで、市民の活動が活かせる場での協働の取り組みのあり方を模索しています。



荒川下流部自然創り管理・運営検討会議資料



### 秩父から東京湾まで 川遊びや魚とりができる荒川に

荒川クリーンエイド・フォーラム代表理事 佐藤 正兵

荒川では、最上流の秩父から河口の東京湾なぎさまで、さまざまな団体が川で活動しています。

秩父の環境を考える会の荒川再生プロジェクトはウグイの産卵場を確保する活動をおこなっており、その下流の「熊谷の環境を考える連絡協議会」「鴻巣の環境を考える会」「荒川の環境を考える会（上尾）」などがそれぞれの活動とともに、「荒川流域ネットワーク」に参加して「荒川再生プロジェクト」として鮎の放流遡上調査を通じた魚の行き交う川作りを進めています。当荒川クリーンエイド・フォーラムは里川再生プロジェクトを含めて干潟やヨシ原の整備など生態系の復

元を進めてきました。そして最下流の東京湾葛西渚では「ふるさと東京を考える実行委員会」が里海復活プロジェクトとして、葛西海浜公園西なぎさで、カキやハマグリ、海苔などを復活させて水質を浄化し、子どもたちが昔の様に泳げる海にしようという活動を進めています。

荒川流域ではさらに連帯を強めて、「魚の行き交う荒川」を実現してゆきたい。そして近い将来、昔のように、荒川の上流から東京湾まで、子どもたちが川遊びや海での遊びを存分に楽しめるような環境を再生したいと思います。

## 行政との対話の場 荒川自然懇談会への参加

荒川下流河川事務所がコンクリート護岸を撤去して、自然護岸化された小松川自然創り（船堀橋上下流右岸



1.1km)は、ヨシ原が広がりその周りにイセウキヤガラも繁茂してトビハゼの稚魚が育つなど自然環境がひととき豊かになり

ました。その後も下流部の各地で木工沈床の設置工事が行われ、自然の回復が期待されています。

これまでは工事による成果の検証は業者に委託して実施されていましたが、国土交通省では市民との協働による調査を行う方向で政策が見直され、荒川下流でも荒川自然懇談会と協働による植物、底生生物、野鳥、昆虫の4区分に関するモニタリング調査が検討されています。

### 荒川下流部 自然環境モニタリング

荒川クリーンエイド・フォーラム副代表理事 荒川自然連絡会代表 いたばし野鳥クラブ会長 栗林 菊夫



下流域で活動する自然関係市民のリーダーであった野村圭佑(故人)さんの呼びかけで、荒川下流域で活動する市民団体が集まり、2002年荒川自然連絡会として発足、荒川下流河川事務所との意見交換会を年2回ほど開催してきました。

この間に一昨年は『荒川へようこそ！（自然も生き物もいっぱい）』というパンフレット(荒川下

流河川事務所発行)の制作に協力しました。現在は河川事務所が行った木工沈床などの自然再生事業のその後の環境調査について、河川事務所と自然連絡会が協力して実施する話し合いが行われています。今夏から市民団体から講師を出して環境モニタリングの講習会が行われ、来年度には、荒川下流部の自然造成ポイント約10箇所のモニタリング調査を協働して行う予定になっています。



### セイトカアワダチソウと生態系のモニタリング

荒川クリーンエイド・フォーラム 理事 橋本 浩基

小松川自然創りにおいて、セイトカアワダチソウが繁茂することで在来種やその他の生態系に及ぼす影響を明らかにすべく、生物調査を行いました。15メートル四方の正方形区画を3箇所選び、それぞれの区画内の植物はそのままにしてセイトカアワダチソウを全部抜き取る区画と、根元から刈り取る区画、そして全く手をつけずの区画を選定し、経過を観察しました。

抜き取り区画では、茎も残っていない状態になり、チガヤやエノコログサ、ヨモギなどの在来種主体の低い草場が現れ、おおむね良好な環境が見られました。刈り取り地域では、セイトカアワダ

チソウの根が残り新芽が成長したためか、ツルマメがそれらに絡まり繁茂してドーム状になり、その下には他の植物が生えない状態でした。ツルマメの繁茂しないところは22種の草本がみられました。昆虫類は6種確認され、ある程度の生態系の改善がみられました。手をつけずの地域では、セイトカアワダチソウに混じりヨシも繁茂し両者の林のようになっていました。

1年の調査ではまだまだ実態が明らかにならないため、今後、3～5年は綿密に調査し、生物種の変化などをしっかりとモニタリングする必要があります。



## 全国の河川ゴミの現状把握へ 国土交通省WGに参加

### ■ 河川ゴミ対策も発生抑制の効果は十分でない

近年、河川利用が進む一方で、河川に散乱するゴミや不法投棄は増加傾向にあります。河川管理者、自治体、NPO等では、ゴミマップを作成する等の意識啓発等を行っていますが、効果が十分でない状況にあります。

### ■ 河川ゴミの状況把握・発生抑制に関するワーキング開催

このような背景から、行政、NPO、地域住民等が協働して全国統一の指標により河川ゴミの量や分布を把握・評価するとともに、河川ゴミの発生量などを情報発信し発生抑制に結びつける方策等について検討することを目的として「河川ゴミの状況把握・発生抑制に関するワーキング」が開催されました。当会からは、事務局長の糸岡栄博が検討会に参加しました。

### ■ 試験的な調査を荒川で実施

2月に開催された第一回会合では、会議前に、荒川西新井橋上流右岸にて、試験的な調査が実施されました。冬シーズンにあって、荒川クリーンエイドがほとんど開催されていないなか、甚大な量のゴミが堆積していました。各委員の参加者も都市河川荒川の想像以上の漂着ゴミに驚き、発生抑制の意識を新たにしたことでしょう。



河川ゴミ調査マニュアル(案)



### 全国のゴミの発生抑制について今後の動向

荒川クリーンエイド・フォーラム 理事・事務局長 糸岡 栄博

2011年の「河川ゴミの状況把握・発生抑制に関するワーキング」では、主に現状把握の比重が高かったように思います。国が対策予算を掲げるにあたり、まず、どの程度の漂着ゴミが国内の河川に堆積しているか、そして、ゴミの処分にどれだけのコストが必要なのか、試算する必要があるのです。

検討会では、河川ゴミの現状把握を全国の河川で展開することを目指し、調査マニュアル(案)が策定されました。マニュアルの中には、荒川クリーンエイドの事例や京都の保津川(淀川水系)のゴミマップの事例などが示されたほか、目視や

写真判定によるゴミの堆積レベルを定性・定量的に評価する手法まで示されています。しかし、ヨシの密生度が高い、荒川のような河川では、なかなかその判定が難しい面があります。また、場所ごとのゴミの散乱状況をマップ化しても、そこからすぐには具体的な発生抑制策が見いだせないなど、幾多の課題があがりました。

今後、全国の河川にこの手法を展開にするにあたり、少しでも地域に即した調査手法を考案すべく引き続き、当会としてこの問題に向かい合い、発言していかなければなりません。

## 国内、世界のゴミの発生抑制に向けたNGOとの連携

### ■ 国内全国規模のNGOとの連携

荒川のゴミデータを活用し、国内のゴミの現状調査データに組み込んでもらうよう、1994年から一般社団法人JEAN(旧クリーンアップ全国事務局)と連携してき

### ■ 世界規模のNGOとの連携

2011年の醍醐味は、日本国内の活動に留まらず、世界で活動する団体との協働を実現することでした。荒川クリーンエイド・フォーラムは、1994年の第一回の荒川クリーンエイド活動の実施以降、JEANを通して、国際海岸クリーンアップキャンペーン(International Coastal Cleanup(ICC))に参加してきました。この活動は、アメリカの環境NGO「The Ocean Conservancy(オーシャン・コンサーバンシー)」が、海のゴミ問題に世界規模で取り組むため、1986年から展開している海岸のゴミ調査とクリーンアップ活動です。毎年、世界各国で約150カ国、140万人以上のボランティアが参加しています。

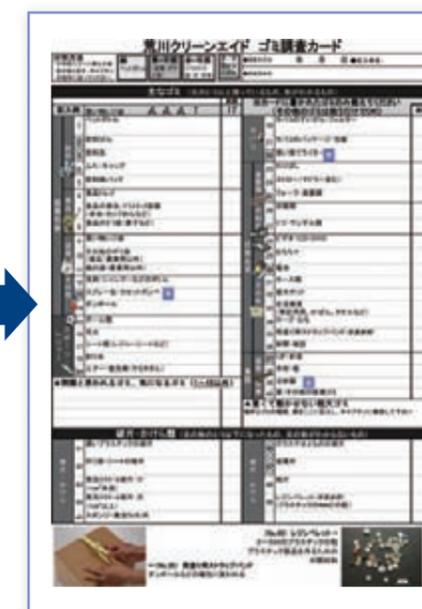
### ○ 調査カードの改定

荒川では、1994年のICC導入以降、荒川にふさわしい調査カードへの改定が進みました。一方で、オーシャン・コンサーバンシーが世界に手掛けるグローバルスタンダードから逸脱し、少なからず、ゴミの品目間におけ

る不整合を起こしてきた背景もあります。そこで、今年、荒川が荒川で終わらず、日本を超えて、世界のゴミの発生抑制に寄与すべく、オーシャン・コンサーバンシーが定めるゴミ調査カードへの適応を実現しました。



ICC参加証



調査カードの改定



## 活動の魅力の発信と社会変革を促す荒川スタイル

### ■ メディアミックスを駆使した活動の魅力とゴミデータの発信

2010年にリニューアルしたホームページをはじめ、ニュースレターやEメールニュースなどあらゆる広報ツール、主催イベントや他団体主催の大規模イベントの場を利用し、活動への参加と荒川ゴミの現状について情報発信をしました。



公式ホームページ「環境学習コーナー」



ニュースレター  
秋号



2/14 フォーラム報告・連絡会



プレスリリースを活用した社会発信

## 市民の力で 人を集め 社会へ 発信する

私たちの広報・情報発信には、二つの考え方があります。もちろん、良いイベントを開催するにあたり、魅力的な企画を考え、より多くの参加者を募集することは第一に必要な考え方です。私たちは、2011年、もうひとつの考え方を具現化しました。それは、荒川クリーンエイドというイベントで得られたゴミデータを社会に発信し、循環型社会を目指すということを念頭に置いた考え方です。

また、この2つを一度に行うべく、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）での環境ボランティア見本市や国内最大級の環境展示会であるエコプロダクツにブースを出展し、多くの人に、活動の魅力と問題解決の必要性を発信しました。

### ■ エコプロダクツ展へ出展

12月15日-17日の三日間、東京ビックサイトで開催されたエコプロダクツ展に出展しました。一般の方々や企業の方々への活動の周知、他のNPOとの連携を図ることが主な目的です。三日間でブースに訪れた延260名（概算）の来訪者に当会の魅力と荒川の漂着ゴミの現状についてお話ししました。



実際に荒川に落ちていたゴミを、クリーンエイドのゴミデータと整合させ、一定量の割合で用意し、模擬クリーンエイド体験コーナーを開設しました。これが非常に好評で、多くの来訪者が写真を撮っていきました。



書籍・パンフレットコーナー



模擬クリーンエイド体験

## 有名婦人雑誌ミセスほか、テレビ・新聞ラジオでの報道概況

### ■ 婦人向け雑誌ミセスに掲載

"Love Action 社会貢献" のコーナーの中で、「荒川のゴミを拾うことで、川を、海を、地球を守る」のタイトルで、荒川クリーンエイド・フォーラムの活動が紹介されました。

ゴミを数えながら拾うことで、参加者が気づき、考えるきっかけになることや、今年からは「マイボトルを持って荒川にゴミ拾いに行こう」といった呼びかけが始まること、ゴミの発生抑制の活動にも力を入れていること、今では荒川の自然も戻ってきていることなどが短い文章の中で紹介されています。

「荒川のゴミを拾うことで、川を、海を、地球を守る」



ミセス 2011.9月号

### ■ テレビ

24時間テレビリポートは4年連続、トコトンハテナは2年連続の放映となりました。テレビ朝日の報道ステーションに始めて取り上げられました。



テレビ東京  
「トコトンハテナ」  
2011年  
8月21日放送

日付	放送局	番組名
2011年 5月29日	日本テレビ	真相報道バンキシャ!
2011年 6月 5日	日本テレビ	24時間テレビリポート
2011年 8月21日	テレビ東京	トコトンハテナ
2011年10月12日	テレビ朝日	報道ステーション
2011年10月13日	テレビ朝日	やじうまテレビ!

### ■ 新聞

都内で購読者数が最も多い、読者新聞への掲載頻度が拡大しました。



東都よみうり 2011年11月11日

日付	新聞社	見出し
2011年 5月30日	読者新聞	荒川でゴミ拾い ボランティア130人
2011年 6月 1日	東京新聞	ごみ拾い活動で「荒川に自然を」
2011年 6月17日	東都よみうり	雨の中のゴミ拾い「荒川クリーンエイド2011」
2011年 6月20日	読者新聞	第13回日本水大賞 受賞者決定21日表彰式
2011年 7月 7日	読者新聞	「絶滅危惧」のトンボ発見 NPOが荒川河川敷で
2011年 9月10日	読者新聞	荒川清掃作戦 きょうスタート
2011年10月25日	毎日新聞	野球少年5550人 黒目川沿い清掃
2011年10月31日	読者新聞	「世界の王」とゴミを拾う
2011年11月 8日	埼玉新聞	児童が河川清掃 ヤマメの放流も体験 秩父
2011年11月11日	東都よみうり	王貞治さんも一緒にゴミ拾い 荒川クリーンエイド
2011年11月28日	読者新聞	東京の記憶 荒川放水路
2011/12-2012/1月号	マイECO(毎日新聞)	下町の川の周辺でクリーン活動

その他、ラジオ、自治体広報に多数取り上げられました。

## 団体のTシャツやバンダナの販売を開始

荒川クリーンエイド・フォーラム オリジナルのTシャツ、バンダナを作成し、ご希望の方に販売を開始しました。

### 〈Tシャツ〉



**価格** 2,800 円  
(荒川クリーンエイド・フォーラム会員は、2,500円)

**送料** ○1枚 ——— 200 円  
○2枚 ——— 400 円  
○3枚以上 — 無 料

### 〈バンダナ〉



**価格** 600 円  
(荒川クリーンエイド・フォーラム会員は、500円)

**送料** ○1~10枚 ——— 200 円  
○11~20枚 ——— 400 円  
○21枚以上 — 無 料



荒川クリーンエイド・フォーラムのスタッフは、緑のTシャツにて、活動をサポートします。



バンダナは既に多くの皆様にご愛用いただいています。

多くのNGO・NPOが手掛けている販売部門をようやく私たちも本格的にスタートしました。従前行っていた書籍の販売とともに、今後ますます、活動の魅力を発信していきます。



## 2011年 お世話になりました

本年も様々な形で多くの団体・個人の皆さまにお世話になりました。

### ■ 寄付

荒川クリーンエイド・フォーラムへの寄付をいただきました。

〈一般寄付〉

株式会社 常栄イノベーション  
グリーン家電 エコポイント  
住宅 エコポイント  
Johnson Controls  
富士ゼロックスシステムサービス株式会社  
OIOI MARUI GROUP  
CHARITY PLATFORM

○普及啓発基金  
連合東京 ups

○生物多様性基金  
全労済

### ■ 協賛

荒川クリーンエイド2011への協賛として企業・団体の皆さまからご支援をいただきました。

〈一般協賛〉

足立成和信用金庫  
R-bis  
アールビーズスポーツ財団  
小松川信用金庫  
thousand waves  
TRANSPORT! COMMUNICATION SAGAWA  
日立ビルシステム  
ライオンズクラブについては、東京白鷺・城北・西新井・足立中央ライオンズクラブより協賛をいただいております。

〈物品協賛〉 公益社団法人 食品容器環境美化協会、株式会社スター商事、株式会社トンボ鉛筆、日本たばこ産業株式会社東京支店、株式会社 ローソン

### ■ 後援

荒川クリーンエイド2011への後援をいただきました。  
国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所  
埼玉県、東京都、戸田市、川口市、板橋区、北区、荒川区、台東区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区

### ■ プロボノ支援

専門性を有した以下のボランティアの皆様に支援をいただきました。  
大塚 拓、稗田 竜子、中根 佳菜子、山口 勝則、肥田 昌也

### ■ 学生インターン

環境教育を学ぶ学生インターンを受け入れました。 佐藤 拓真（東京都市大学 環境情報学科）

### ■ 政府調達業務

関東地方整備局荒川下流河川事務所より業務を受注しました。 平成23年度荒川下流水辺等管理支援補助業務

### ■ 助成事業

右表の助成金に採択され、プロジェクトを実施いたしました。

助成金・助成事業名	採択された当会のプロジェクト名
河川整備基金	荒川下流域における河川環境保全に向けた人材育成事業
JT NPO 助成事業	荒川キッズ育成事業～生物多様性プロジェクト
社団法人関東建設弘済会	荒川環境美化活動運営支援業務
三井物産環境基金	民間企業とNPOとの協働によるアダプト制度的河川管理体制の創造
Panasonic NPO サポート ファンド	ゴミ調査データを用いた社会発信のモデル的実践



I I HOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北秀人  
(パナソニックNPOサポートファンド(環境分野) 選考委員長)

荒川の清掃・美化に取り組み続けることが、誰に、どんな波及効果をもたらすことに結びつくのか。パナソニックNPOサポートファンドは、この問いに答えていただくために、ACFへの助成を決めました。良い活動を続けるだけでなく、それが地

域や企業の人材を育てることに結びつくなら、ACFの活動は、地域や企業にとって「支援」するより、「存分に活用」するほうがいい、という存在へと進化します。経験やノウハウの持つ価値を、ぜひ存分に生かしてください。

## 荒川クリーンエイド・フォーラムの組織

### ■ 役員

	役名	氏名	所属等
1	代表理事	佐藤 正兵	中土手に自然を戻す市民の会 会長
2	副代表理事	薄井 洋一	中土手に自然を戻す市民の会 会員
3	副代表理事	栗林 菊夫	いたばし野鳥クラブ 代表
4	副代表理事	林 美恵子	荒川夢クラブ 事務局
5	理事・事務局長	糸岡 栄博	(荒川クリーンエイド・フォーラム事務局)
6	理事	石本 誠	(財)埼玉県生態系保護協会 戸田・蕨支部長
7	理事	伊藤 浩子	(荒川クリーンエイド・フォーラム事務局)
8	理事	鬼頭 秀一	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授
9	理事	橋本 浩基	あらかわミズガキ隊 隊長
10	理事	星野 由実	下平井水辺の楽校 運営委員
11	理事	恵 小百合	NPO 法人 荒川流域ネットワーク 代表理事
12	監事	菅谷 輝美	新河岸水系水環境連絡会 代表
13	監事	中嶋 美南子	下平井水辺の楽校 代表

- 顧問 尾田 栄章 NPO 法人渋谷川ルネッサンス 代表理事
- 事務局 事務局長 糸岡 栄博  
事務局員 伊藤 浩子、江原 春美、星野 由実
- 運営委員 石川 勉、石本 誠、伊藤 浩子、糸岡 栄博、薄井 洋一、江原 春美、香川 千波  
栗林 菊夫、佐藤 正兵、高山 亮、田口 明美、橋本 浩基、林 美恵子、星野 由実
- 会員 (2011.12.28 現在)

会員区分	団体	個人
正会員	以下37団体 (学)足立学園中学校、足立成和信用金庫、NPO法人荒川流域ネットワーク、一般財団法人アールビーズスポーツ財団、SMCシビルテクノス(株)、(株)エックスワン、江戸川ケーブルテレビ(株)、江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ、NTT労働組合東京グループ連絡協議会、(株)かんぼ生命保険、一般社団法人建築ビジョン、江東エコリーダーの会、小松川信用金庫、島村運輸倉庫(株)、下平井水辺の楽校、情報労働東京都協議会、住友生命保険(相)、(株)ダイエー、東海東京フィナンシャル・グループ、東京白鷺・城北・西新井・足立中央ライオンズクラブ、一般社団法人東京損害保険代理業協会城東支部、中土手に自然を戻す市民の会、日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)、日本工営(株)、日本サムスン(株)、(株)日立ビルシステム、富士ゼロックスシステムサービス(株)、富士ゼロックスシステムサービス(株)ボランティア基金、(株)藤商事、ふるさと清掃運動会実行委員会、ブルームバーグL.P.、松山油脂(株)、みずほ証券(株)、三井住友海上プライマリー生命保険(株)、リコーテクノシステムズ(株)、(株)りそな銀行、他 匿名希望団体	61人
賛助会員	以下2団体 認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会、NPO法人荒川の自然を守る会	34人
特別賛助会員	以下15団体 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所、埼玉県、東京都、戸田市、川口市、板橋区、北区、荒川区、台東区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区	